

**令和5年度
第1回高知市食育推進会議 資料**

日時：令和5年7月6日（木）18：30～20：30

場所：総合あんしんセンター3階 大会議室

【目次】

高知市食育推進会議条例	1
高知市食育推進会議委員名簿	2
高知市食育推進委員会（庁内体制）	3
令和4年度 主要取組報告	4～14
令和5年度 主要取組予定	15～25
第4次食育推進基本計画（令和3～7年度）の概要	26
高知市食育推進計画の概要	27
高知市食育に関するアンケート調査の概要	28
第3次高知市食育推進計画 食育推進に向けた目標値に対する現状 （アンケート中間報告）	29～30
第3次高知市食育推進計画 総括表	31～40
第4次高知市食育推進計画の方向性について	41
第4次高知市食育推進計画策定スケジュール	42

高知市食育推進会議条例をここに公布する。

平成30年1月1日

高知市長 岡崎 誠也

高知市条例第4号

高知市食育推進会議条例

(設置)

第1条 食育基本法（平成17年法律第63号。以下「法」という。）第33条第1項の規定に基づき、高知市食育推進会議（以下「推進会議」という。）を置く。

(所掌事項)

第2条 推進会議は、次に掲げる事項について、協議及び必要な調整を行う。

- (1) 法第18条第1項に規定する市町村食育推進計画（以下「食育推進計画」という。）の作成に関する事項
- (2) 食育推進計画の実施の推進に関する事項
- (3) 前2号に掲げるもののほか、食育の推進のために必要な事項

(組織)

第3条 推進会議は、次に掲げる者のうちから市長が委嘱する委員15人以内をもって組織する。

- (1) 生産者又は事業者（法人その他の団体にあつては、その役職員等）
- (2) 医療又は保健団体関係者
- (3) 教育又は児童福祉関係者
- (4) 学識経験者
- (5) 食育に関する施策の対象となる市民団体の役職員等
- (6) 前各号に掲げるもののほか、市長が適当と認める者

(会長及び副会長)

第4条 推進会議に会長及び副会長1人を置き、委員の互選によりこれを定める。

2 会長は、会務を総理し、推進会議を代表する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を行う。

(委員の任期)

第5条 委員の任期は、委嘱の日から委嘱した日の属する年度の翌年度の末日までとする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

(会議)

第6条 推進会議の会議は、会長が必要に応じて招集し、会長が議長となる。

2 推進会議は、委員の過半数の出席がなければ、会議を開くことができない。

3 推進会議の議事は、出席した委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(資料提供その他の協力等)

第7条 推進会議は、その所掌事務を遂行するため必要があると認めるときは、関係部局その他の者に対し、資料の提供、意見の表明、説明その他必要な協力を求めることができる。

(守秘義務)

第8条 委員は、その職務上知り得た秘密を漏らしてはならない。その職を退いた後も同様とする。

(庶務)

第9条 推進会議の庶務は、健康福祉部において処理する。

(その他)

第10条 この条例に定めるもののほか、推進会議の運営について必要な事項は、会長が推進会議に諮って定める。

附 則

(施行期日)

1 この条例は、公布の日から施行する。

(会議の招集に関する特例)

2 この条例の施行の日以後最初に開催される推進会議の会議は、第6条第1項の規定にかかわらず、市長が招集するものとする。

高知市食育推進会議 委員名簿

任期:令和4年4月1日～令和6年3月31日

(敬称略)

分野	氏名	所属・職名	
生産者 事業者	さかもと なおき 坂本 尚紀	高知市農業協同組合 営農経済部 部長	
	たむら まさのり 田村 真範	株式会社サンプラザ 常務取締役	
	さんのみや ゆきひろ 三宮 幸弘	高知商工会議所青年部 会長	新任
医療・保健 関係者	ふない まもる 船井 守	一般社団法人 高知市医師会 会長	
	たおか たろう 田岡 太郎	一般社団法人 高知市歯科医師会 専務理事	
	にいや みち 新谷 美智	公益社団法人 高知県栄養士会 会長	
教育 児童福祉 関係者	みなくち ともひろ 水口 智裕	高知市民営保育所協議会園長会 会長 (五台山保育園長)	新任
	ふじた ゆきこ 藤田 由紀子	高知市立小中義務教育特別支援学校長会 (浦戸小学校長)	新任
	はまじ ふみこ 濱地 扶美子	高知商業高等学校 教諭	
	ふるや まりこ 古谷 まり子	高知市社会福祉協議会 地域協働課 課長	
学識経験者	わたなべ けいこ 渡邊 慶子	高知学園大学 健康科学部管理栄養学科 学科長	
市民団体等	ちかもり さよ 近森 佐代	高知市小中学校PTA連合会 副会長	
	はまうず さちこ 濱渦 祥子	高知市食生活改善推進協議会 会長	
	にしもり みえ 西森 美恵	食と健康を学ぶ会 理事	
	みたに ひでこ 三谷 英子	学校法人三谷学園 RKC調理製菓専門学校 常任顧問	

以上 15 名

高知市食育推進委員会(庁内体制)

こども未来部	母子保健課
	保育幼稚園課
教育委員会	教育政策課
	学校教育課
総務部	文化振興課
市民協働部	地域コミュニティ推進課
農林水産部	農林水産課
商工観光部	商業振興・外商支援課
環境部	新エネルギー・環境政策課
健康福祉部	基幹型地域包括支援センター
	生活食品課
	健康増進課

令和4年度 主要取組報告

(1)健康なところと身体のための食育

①基本的な食習慣を身につけるための取組 (第3次高知市食育推進計画 P11~12)

関連する目標 (指標)	現状値 (平成30年度)	目標値 (令和5年度)
① 主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日に2回以上、ほぼ毎日食べている市民の割合	20~30歳代 29.9% 30代 49.0% 40代 95.5% 小学生 89.1% 中学生 78.6% 20~30歳代 68.3%	35% 60% 98% 95% 90% 75%
② 朝食をほとんど毎日食べる市民の割合	20~30歳代 68.3%	75%

<今後の方向性>
 ・朝食の大切さの啓発を行います。
 ・栄養バランスの基本である「主食・主菜・副菜を組み合わせた食事」の啓発を行います。
 ・栄養バランスの基本である「主食・主菜・副菜を組み合わせた食事」の啓発を行います。
 ・朝食の大切さの啓発を行うとともに、共食の機会をつくり出します。
 ・ライフステージに応じた啓発を行います。特に、若い世代 (20~30歳代) を重点に取り組みます。
 ・ライフスタイルに配慮した啓発を行います。

取組名	内容	関連する目標 (指標)	ライフステージ (主な対象者)	所管課 関係団体	令和4年度 実施状況	令和4年度実績
1 幼児健診での普及啓発	幼児健診会場で、早寝早起き朝ごはんの大切さをパネルやリーフレットを用いて周知する。	①②	幼児期 乳幼児 学童・青年期 成人期 高齢期 (胎児) 期 思春期	母子保健課	計画どおり実施	1,6児健診:41回 (2,401人受診), 3歳児健診:41回 (2,336人受診)
2 妊産婦子育て相談はぐみ (育児相談)	妊産婦、子どもに関する個別相談に対応する。	①②		母子保健課	計画どおり実施	妊産婦子育て相談はぐみ:24回
3 母子手帳窓口交付時面接	母子手帳窓口交付時に、食生活について聞き取り、必要時、栄養士相談につなげる。	①②		母子保健課	計画どおり実施	窓口面接率:100%
4 離乳食教室	初めての食べ物との出会いとなる離乳食を通して、口の発達に応じた食べ方や、段階に応じた離乳食の試食 (保護者) をすることによって、食生活の大切さを理解する。	①②		母子保健課	計画どおり実施	総合あんしんセンター:12回 保健福祉センター:3回 東部健康福祉センター:3回
5 食に関する指導計画を作成し、実践する。	食に関する指導計画を作成し、実践する。			保育幼稚園課	計画どおり実施	保育所:100%
6 保護者への啓発	園だより、給食だより、ほけんだより等を通じて「朝食を食べること」の大切さを啓発する。	②		保育幼稚園課	計画どおり実施	食育メモ4・6・3月号
7 イベントでの保育所給食の紹介	イベントでの保育所給食の紹介			保育幼稚園課	計画どおり実施	食育実践発表会に原示コーナーとして参加
8 学校給食を生きた教材として活用した食に関する指導	児童生徒への食に関する指導やPTA対象の試食会の機会を通して、栄養バランスのとれた望ましい食事について啓発する。	①		教育政策課	計画どおり実施	給食回数:小学校197回, 中学校195回 給食試食会:6校/113人参加
9 小中学校食育・地域産品活用推進事業 (体験学習)	地域や関係団体等と連携し、食育体験学習を行い、食べ物や生産等にかかわる人々への感謝の心を育てることや、体験を通して地域の産物の特色や食文化について学ぶ。			教育政策課	計画どおり実施	25校, 38件
10 学校における食に関する指導の推進	保健体育、家庭科、生活科、総合的な学習の時間、特別活動の時間等を活用し、食に関する指導を推進する。	①②		教育政策課 学校教育課	計画どおり実施 計画どおり実施	給食実施率100% 給食時間における食に関する指導をはじめ、各教科と関連付けながらの指導を実施 小学校:100%, 中学校:100%, 義務教育学校100%
11 給食だより、食育だより等による啓発	給食だより、食育だより等による啓発	①②		教育政策課	計画どおり実施	給食だより、食育だより等を配付し、啓発を行った
12 保護だより、給食だより等による啓発	保護だより、給食だより等による啓発	①②		学校教育課	計画どおり実施	給食だより、食育だより等を配付し、啓発を行った
13 9年間の食に関する指導案の作成	小学1年生から中学3年生までの食に関する指導の学習指導案を作成し、学校で活用する。	①②		教育政策課	計画どおり実施	義務教育9年間分の指導案並びに指導資料の作成
14 食育実践発表会	全国学校給食週間にあわせ、高知市立学校における食育や、学校給食について紹介するイベントを開催し、市民・学校・家庭・地域への啓発を行う。	①②		教育政策課	計画どおり実施	令和5年2月23日(水) オーテピアにて実施 入場者数:延べ1200人
15 だしで味わう和食の日	11月に地元産、県内産の食材を積極的に取り入れ、だしを味わうことができるすまし汁等の献立を提供する。	①		教育政策課	計画どおり実施	全校で実施
16 冬の親子料理教室	小学4年生児童とその保護者を対象に、学校給食で地場産物を活用した人気の高い献立を作る。	①		教育政策課	計画どおり実施	令和5年1月29日(日) 高知市立長浜小学校給食センターにて実施 参加者:親子16組32人
17 食育推進支援事業 (食育提供活動支援事業)	小中学校において、朝食提供を行うボランティアに対し、食材等の支援を行う。	①②		教育政策課 県教育委員会	計画どおり実施	小学校1校で実施
18 健康講座 (出前講座)	広聴広報課発着の「あなたに届け隊出前講座」において、申込団体に健康教育を実施する。	①②		健康増進課	計画どおり実施	開催数:23回/参加者数:411人
19 口からはじめめる食育推進事業	小学校での歯科保健指導の実施前後に「食と生活のアプローチ」を実施し、アソケートにて朝食の摂取状況を確認する。	②		健康増進課	計画どおり実施	朝食をほとんど毎日食べる小学生の割合:98.0% 朝食を誰かと食べる小学生の割合:67.4%
20 ヘルスマイトによる啓発活動	本市が養成している食生活改善推進員 (ヘルスマイト) が実施する講習会において「主食・主菜・副菜をそろえて食べること」の大切さを啓発する。	①		健康増進課 市民生活課	計画どおり実施	参加者数:998人 (地区活動での啓発)
21 ヘルスマイトによる啓発活動	ヘルスマイトが実施する講習会において「朝食を食べること」の大切さを啓発する。	②		健康増進課 市民生活課	計画どおり実施	参加者:1,696人 (地区活動および食育イベントでの啓発)
22 ヘルスマイトによる啓発活動	健康増進課実施の女性健診において、ヘルスマイトが若い世代の女性に対し、栄養バランス・朝食の大切さなどの啓発を行う。	①②		健康増進課 市民生活課	変更して実施	参加者数:110人 (女性健診での啓発)

令和4年度 主要取組報告

(1)健康なこころと身体のための食育

②生活習慣病を予防するための取組 (第3次高知市食育推進計画P13)

関連する目標 (指標)	現状値 (平成30年度)	目標値 (令和5年度)
① 主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日に2回以上、ほぼ毎日食べている市民の割合	29.9%	35%
② 減塩に気をつけた取組をしている市民の割合	49.0%	60%
③ ゆっくりよりよくかんで食べる市民の割合	68.0%	74%
	35.8%	45%

＜今後の方向性＞
 ・健康づくりや生活習慣病の予防・疾病管理のために、減塩、適正飲酒について啓発を行います。
 ・パラスよく食べて食育の取組に、主食・主菜・副菜の組み合わせや、野菜の摂取について啓発を行います。
 ・ゆっくりよりよくかんで食べることの効果についての啓発を行います。
 ・関係機関との協働により、健康づくりや生活習慣の改善に取り組み、健康づくりを行います。

取組名	内容	関連する 目標 (指標)	ライフステージ (主な対象者)				令和4年度 実施状況	令和4年度実績
			妊産期 (胎児)	学童期 (幼児)	青年期 (児童)	成人期 (高校生)		
1 パパママ教室	食生活バランスチェックを行い、毎日の食事を見直してもらう。	①	○	○	○	○	変更して実施	開催数：18回、参加者数264人 (妊婦134人、同行者130人) 新型コロナウイルス感染症対策の為、SATシステムの利用を中止し、講義の中で説明しチラシを配布。
2 学校給食を生き教材として活用した食に関する指導の推進【再】	児童生徒への食に関する指導やPTA対象の試食会の機会を通して、栄養バランスのとれた望ましい食事について啓発する。	①②③	○	○	○	○	計画どおり実施	給食回数：小学校197回、中学校195回 給食試食会：6校/113人参加 給食実施率100%。
3 学校における食に関する指導の推進【再】	保健体育、家庭科、生活科、総合的な学習の時間等を活用し、食に関する指導を推進する。	①②	○	○	○	○	計画どおり実施	給食実施率100%。 給食時間における食に関する指導をはじめ、各教科と関連付けながらの指導を実施
4 学校における食に関する指導の推進【再】	体育科、保健体育科、家庭科、生活科、総合的な学習の時間、特別活動の時間等を活用し、食に関する指導を推進する。	①②③	○	○	○	○	計画どおり実施	小学校：100%、中学校：100%、義務教育学校100%
5 給食だより、食育だより等による啓発【再】	給食だより、食育だより等を通じた、児童生徒・保護者及び地域への啓発を行う。	①②③	○	○	○	○	計画どおり実施	給食だより、食育だより等を配付し、啓発を行った
6 保護だより、給食だより等による啓発【再】	保護だより、給食だより等を通じた、児童生徒・保護者及び地域への啓発を行う。	①②	○	○	○	○	計画どおり実施	1月1～2回保護だより、給食だより等を配布し、啓発を行った
7 9年間の食に関する指導案の作成【再】	小学1年生から中学3年生までの食に関する指導の学習指導案を作成し、学校で活用する。	①②③	○	○	○	○	計画どおり実施	義務教育9年間の指導案並びに指導資料の作成
8 健康講座 (出張講座)【再】	広聴広報課発行の「あなたに届け隊出前講座」において、申込団体に健康教育を実施する。	①②③	○	○	○	○	計画どおり実施	開催数：23回/参加者数：411人
9 健康相談 (出張相談)	健康相談を返す際に説明会を開催し、健康増進や生活習慣病の発症・重症化予防の講座を行う。	①②③	○	○	○	○	変更して実施	開催数：11回/参加者数：384人 新型コロナウイルス感染症予防のため、規模や内容を変更し実施。
10 女性健診結果説明会	女性健診結果説明会を開催し、健康増進や生活習慣病の発症・重症化予防の講座を行う。	①②③	○	○	○	○	計画どおり実施	開催数：4回/参加者数：39人
11 いきいき健康チャレンジイベント (スターティング・応援講座・結果報告会)	関係団体 (高知県栄養士会・ヘルスマイト・協会けんぽ) と連携して、健康増進の観点から栄養バランスや減塩について普及・啓発を行う。	①②	○	○	○	○	変更して実施	スタートイベント実施/参加者35人 応援講座2回実施 (1回は新型コロナウイルス感染症拡大のため中止) /参加人数：121人 結果報告会中止 (新型コロナウイルス感染症拡大のため)。
12 生活習慣病予防に関する協議会	生活習慣病の予防対策を推進するため、関係機関と具体的な方策について協議し、啓発活動や環境づくり等の取組につなげる。	①②③	○	○	○	○	計画どおり実施	2回実施。「すべての市民が健康でいられる高知市」をめぐり、情報発信や環境づくりについて協議。
13 ヘルスマイトによる啓発活動【再】	ヘルスマイトが実施する講習会において「主食・主菜・副菜をそろえて食べること」の大切さを啓発する。	①	○	○	○	○	計画どおり実施	参加者数：998人 (女性健診での啓発)
14 ヘルスマイトによる野菜料理レシピの考案および啓発活動	ヘルスマイトが高知食材を使用した野菜料理レシピを考案し、そのレシピを用いて、講習会において「野菜を食べること」の大切さを啓発する。	①	○	○	○	○	計画どおり実施	参加者数：367人 (市役所食堂レストラン、イオンモール高知SDGsイベントでの啓発)
15 ヘルスマイトによる啓発活動	ヘルスマイトが実施する講習会において、減塩に関する内容を盛り込み、啓発を行う。	②	○	○	○	○	計画どおり実施	参加者数：101人 (森野地区健診での啓発)
16 ヘルスマイトの料理恋愛活	結婚を考える20歳代～40歳代の男女の出会いイベントを通して、健康的な生活習慣や食生活を伝えるとともに、料理経験の少ない若い世代の食生活の自立を促す。	①②	○	○	○	○	中止	中止
17 特定健康診査・特定保健指導	40～74歳の高知市国保被保険者にメタボリックシンドローム (通称：メタボ・内臓脂肪症候群) をはじめとする生活習慣病の早期発見・早期予防を目的とした健診・保健指導を実施する。	①②③	○	○	○	○	計画どおり実施	＜令和3年度実績＞ ※令和3年度法定報告値より 特定健康診査受診率：29.1% 特定保健指導実施率：38.8%
18 高知市国保若年者健康診査・保健指導	39歳の高知市国保被保険者にメタボリックシンドローム (通称：メタボ・内臓脂肪症候群) をはじめとする生活習慣病の早期発見・早期予防を目的とした健診・保健指導を実施する。	①②③	○	○	○	○	計画どおり実施	若年者健診受診者：66名 特定保健指導対象者：16名

令和4年度 主要取組報告

(1)健康なこころと身体のための食育

③低栄養を予防するための取組 (第3次高知市食育推進計画P14)

関連する目標 (指標)	現状値 (平成30年度)	目標値 (令和5年度)
① 主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日に2回以上、 ほぼ毎日食べている市民の割合	20~30歳代 29.9% 20~70歳代 49.0%	35% 60%
② 一日一回は誰かと一緒に食事をする市民の割合	60~70歳代 54.4%	60%

<今後の方向性>

- ・「低栄養」について、知識や理解の普及啓発を行います。
- ・若い女性の栄養状態が、次世代への健康につながることを啓発を行います。
- ・食の機会を通じた集いの場づくりを推進します。

取組名	内容	関連する 目標(指標)	ライフステージ (主な対象者)	所管課 関係団体	令和4年度 実施状況	令和4年度実績
1 パパママ教室【再】	食生活バランスチェックを行い、毎日の食事を見直してもらおう。	①	妊産婦 乳幼児 学童 思春期 青年期 成人期 高齢期	母子保健課	変更して実施	開催数：18回、参加者数 264人 (妊婦 134人、同行者 130人) 新型コロナウイルス感染症対策の為、SATシステムの利用を中止し、講義の中で説明しチラシを配布。
2 学校における食に関する指導の推進【再】	保健体育、家庭科、生活科、総合的な学習の時間、特別活動の時間等を活用し、食に関する指導を推進する。	①		教育政策課	計画どおり実施	給食実施率 100% 給食時間における食に関する指導をはじめ、各教科と関連付けながらの指導を実施
3 中学生に対する食に関する指導の推進	体育科、保健体育科、家庭科、総合的な学習の時間、特別活動の時間等を活用し、食に関する指導を推進する。			学校教育課	計画どおり実施	中学校：100%、義務教育学校 100%
4 学校給食を生きた教材として活用した食に関する指導の推進【再】	児童生徒への食に関する指導やPTA対象の試食会の機会を通して、栄養バランスのとれた望ましい食事について啓発する。	①		教育政策課	計画どおり実施	給食回数：小学校 197回、中学校 195回 給食試食会：6校/113人参加
5 給食だより、食育だより等による啓発【再】	給食だより、食育だより等を通じた、児童生徒・保護者及び地域への啓発を行う。	①		教育政策課	計画どおり実施	給食だより、食育だより等を配付し、啓発を行った
6 保健だより、給食だより等による啓発【再】	保健だより、給食だより等を通じた、児童生徒・保護者及び地域への啓発を行う。	①		学校教育課	計画通り実施	月1~2回保健だより、給食だより等を配布し、啓発を行った
7 健康講座 いきいき百歳体操サポーター一養成	高齢期における低栄養予防の意識づくりなど、介護予防事業を展開する。	①		基幹型地域包括支援センター	変更して実施	地域の健康講座 26回/388人 サポーター養成 2回/32人 ※新型コロナウイルス感染症拡大により、支援回数や規模縮小
8 低栄養予防プログラム	高齢期における低栄養予防の意識づくり、低栄養にならない食習慣の獲得。	①		基幹型地域包括支援センター	変更して実施	いきいき百歳体操の18会場グループ(4回コース/会場)で実施 18会場19グループ：支援回数59回(コロナによる中止1回、残り支援回数6回)/延べ参加者数：726人 ※新型コロナウイルス感染症拡大により、規模縮小
9 健康講座(出前講座)【再】	広聴広報課発着の「あなたに届け隊出前講座」において、申込団体に健康教育を実施する。	①②		健康増進課	計画どおり実施	開催数：23回/参加者数：411人
10 女性健診・結果説明会	健診や結果説明会の際に、貧血予防の啓発や保健指導を実施する。	①		健康増進課	計画どおり実施	開催数：4回/参加者数：39人
11 ヘルスマイトによる啓発活動	ヘルスマイトが実施する講習会において、「低栄養予防」の啓発を行う。	①		健康増進課	計画どおり実施	開催数：43回/参加者数：507人
12 ヘルスマイトによる啓発活動【再】	健康増進課実施の女性健診において、ヘルスマイトが若い世代の女性に対し、栄養バランス・朝食の大切さなどの啓発を行う。	①		健康増進課	計画どおり実施	参加者数：110人(女性健診での啓発)

令和4年度 主要取組報告

①健康なこころと身体のための食育

④歯と口の健康のための取組 (第3次高知市食育推進計画 P15)

関連する目標 (指標)	現状値 (平成30年度)	目標値 (令和5年度)
① ゆっくりよくかんで食べる市民の割合	35.8%	45%
② 歯肉炎になつていない小学生の割合	74.8%	81%
③ 歯肉炎になつていない中学生の割合	67.6%	74%

＜今後の方向性＞

- ・子どもの口の発達に応じた食べ方の啓発を行います。
- ・口の機能や口呼吸の改善のために口の体操を普及します。特に、幼児期・学童期を重点に取り組みます。
- ・しっかりとよくかんで食べることで歯の健康や生活習慣病予防と関係することの啓発を行います。
- ・「かかりつけ歯科医」をもち、口の健康管理をすることを継続して啓発します。
- ・ライフステージに応じた啓発を行います。

取組名	内容	関連する目標 (指標)	ライフステージ (主な対象者)	所管課関係団体	令和4年度実施状況	令和4年度実績
1	パパママ教室	①	妊産婦 乳幼児 学童 青年期 成人期 高齢期	母子保健課	変更して実施	開催数：18回、参加者数264人 (妊婦134人、同行者130人) 細菌カウンタは中止し、講義の中で保護者の口の中の健康について説明。チラシ配布。
2	離乳食教室や育児講座での普及啓発	①		母子保健課	変更して実施	開催数：18回、参加者数264人 (妊婦134人、同行者130人) 細菌カウンタは中止し、講義の中で保護者の口の中の健康について説明。チラシ配布。
3	幼児健診での普及啓発	①		母子保健課	計画どおり実施	1.6児歯科健診：41回 (2,401人受診)、3歳児歯科健診：41回 (2,336人受診)
4	子育て支援センターでの育児講座	①		母子保健課	計画どおり実施	15か所94組
5	保護者への啓発	①		保育幼稚園課	計画どおり実施	給食室より5・6・7・8・9・10・11・3月号 食育メモ8・11月号 ほげん日より6・11月号
6	発達に応じた給食の提供	①		保育幼稚園課	計画どおり実施	日々の給食で実施
7	歯科口腔健康指導	②		学校教育課 健康増進課	計画どおり実施	高知学園短大学生による歯科健康指導 小学校22校、中学校4校に講話を実施
8	授業等における歯の健康に関する指導	②		学校教育課	計画どおり実施	高知市立学校全校で実施
9	かみかみ献立	①②		教育政策課	計画どおり実施	全校で実施
10	給食だより、食育だより等による啓発【再】	①②		教育政策課	計画どおり実施	給食だより、食育だより等を配付し、啓発を行った
11	保健だより、食育だより等による啓発	①		学校教育課	計画どおり実施	高知市立学校全校で実施
12	かみかみ百歳体操の普及啓発	①		健康増進課	変更して実施	支援回数：53回、健康講座：9回 ※新型コロナウイルス感染症拡大により、支援回数や規模縮小
13	放課後児童クラブでの健康講座	①②		健康増進課	変更して実施	コロナの影響で中止時期あり 開催数：41回 (19校)、参加者数：1,034人
14	出前講座	①		健康増進課	計画どおり実施	開催数：5回、参加者数：57人
15	歯っぴいスマイルフェア	①②		健康増進課 市歯科医師会	変更して実施	11月にSDGs関連イベントとして「食育からはじまる健康づくり」をテーマに実施 (高知市、高知市歯科医師会主催) 全体来場者：1,474名、観客：45名
16	成人歯周病健診事業	①②		健康増進課	計画どおり実施	受診者数：501人 (令和5年4月報告分)
17	女性健診における歯科健診			健康増進課	計画どおり実施	4回実施 受診者数：149人
18	若い世代・働き世代への保健指導			健康増進課	変更して実施	集団指導 (母子保健課事業、結果説明会)：37回 596名 特定健診 (集団) での普及啓発 (チラシ配布)：1,440名 一対一指導は行わず、総合保健協会の協力で受診者全員に啓発チラシを送付
19	いきいき健康チャレンジと連携した啓発・保健指導	①		健康増進課	計画どおり実施	スタートイベントでの歯科講演：35名 歯科健診受診者数 (チャレンジノート) 回答率：1,077 チャレンジ前：69.3%、チャレンジ後：74.7%

関連する目標 (指標)	現状値 (平成30年度)	目標値 (令和5年度)
① 食中毒予防のための正しい知識を持っている市民の割合	14.1%	20%

＜今後の方向性＞

- ・手洗いの大切さの啓発を行います。
- ・食中毒予防の三原則の啓発を行います。
- ・子どもの頃から生活における手洗い等の衛生習慣を意識づけれます。
- ・鶏肉の生食の危険性の普及啓発を継続して行います。
- ・焼肉の際のトングと箸の使い分けや加熱調理の徹底の普及啓発を継続して行います。
- ・カキなどの二枚貝の生食の危険性の普及啓発を行います。

取組名	内容	関連する目標 (指標)	ライフステージ (主な対象者) 妊産婦 乳幼児 学童 思春期 青年期 成人期 高齢期	所管課 関係団体	令和4年度 実施状況	令和4年度実績
1 食事前等の手洗いのための正しい知識を伝えるための取組	子どもの頃から手洗い等の衛生習慣を意識づけける。	①	○	保育幼稚園課	計画どおり実施	日々の保育で実施
2 保護者への啓発活動	園だより、給食だより、ほげんだより等を通じ、衛生習慣についての啓発活動を行う。	①	○	保育幼稚園課	計画どおり実施	給食室だより7・2月号、食育メモ6・11・12月号、ほげんだより12月号にて手洗い等衛生習慣について啓発
3 学校給食を生きた教材として活用した食に関する指導	給食準備における手洗い、身支度等に関する指導を通して、衛生的な給食実施に取り組み。	①	○	教育政策課	計画どおり実施	給食準備における手洗い、身支度等に関する指導を実施
4 給食だより、食育だより等による啓発【再】	給食だより、食育だより等を通じた、児童生徒・保護者及び地域への啓発を行う。	①	○	教育政策課	計画どおり実施	給食だより、食育だより等を配付し、啓発を行った
5 保健だより、給食だより等による啓発	保健だより、給食だより等を通じた、児童生徒・保護者及び地域への啓発を行う。	①	○	学校教育課	計画どおり実施	月1〜2回保健だより、給食だより等を配布し、啓発を行った
6 広報「あかるいまち」やホームページによる広報	広報「あかるいまち」やホームページを活用し、広く市民に食の安全に関する情報を発信する。	①	○	生活食品課	計画どおり実施	あかるいまち 8月：アノサキスによる食中毒が増えています!! 12月：ノロウイルス食中毒に注意!
7 消費者を対象とした食品衛生講習会の開催	広聴広報課発信の「あなたに届け隊出前講座」や、児童とその保護者を対象とする食品衛生教室等で、自らを守る食中毒予防に関する正しい知識について普及啓発する。 ＜健康講座 (出前講座)、親子食品衛生教室＞	①	○	生活食品課	計画どおり実施	健康講座：8回/25名 (依頼はあったが、感染拡大により中止したものを除く) 親子食品衛生教室：開催見合わせ
8 事業者を対象とした食品衛生講習会の開催	事業者を対象とする各種講習会等において、食中毒予防に関する正しい知識等について普及啓発する。 ＜営業許可証交付講習会、食品衛生責任者養成講習会、事業者・給食関係者等講習会、食品関連事業者の監視指導＞	①	○	生活食品課	計画どおり実施	営業許可証交付講習会：22回/1,013名 食品衛生責任者養成講習会：7回/512名 食品衛生責任者実務講習会：8回/58名 事業者・給食関係者等講習会：26回/772名 その他の講習会：16回/458名 食品関連事業者の監視指導：3,115件
9 食の安全に関するリスキューコミュニケーションの開催	消費者・事業者・行政が食の安全に関する正確な情報を共有する機会をもつことで、様々な立場でそれぞれ主体的に食の安全への関わりが持てるような正確な情報の共通認識を目指す。	①	○	生活食品課	中止	新型コロナウイルス感染症状況により開催見合わせ

関連する目標(指標)	現状値 (平成30年度)	目標値 (令和5年度)
① 災害時の食の備えを実践している市民の割合	20~70歳代 66.5%	80%

<今後の方向性>
 ・備蓄の必要性について、啓発を行います。
 ・飲料だけでなく主食・副食など備えが充実するよう、備蓄食の内容について、啓発を行います。
 ・子ども頃から「災害に備える」知識や理解を深めるための啓発を行います。

取組名	内容	関連する 目標(指標)	ライフステージ(主な対象者)					所管課 関係団体	令和4年度 実施状況	令和4年度実績
			妊産期 (胎児)	乳幼児 期	学童・ 思春期	青年期	成人期			
1 保育所等における備蓄食の確保	保育所で被災することを想定し、園児・職員の備蓄食の確保を行う。			○				保育幼稚園課	計画どおり実施	市立保育所26園、市立幼稚園1園に備蓄食を整備
2 保育所給食での備蓄食の提供	備蓄食を給食として提供・喫食することにより、災害時に備えた取組を行う。			○				保育幼稚園課	計画どおり実施	上記の施設で賞味期限の入れ替えの際に給食として提供し、実際に食べる模擬をした
3 防災給食の実施	9月に1回実施、災害時の食を通し、災害に備えようとする意識を高める機会とする。	①			○			教育政策課	計画どおり実施	小学校37校、中学校4校、義務教育学校2校で実施 春野東小・春野西小は10月に実施 特別支援学校は11月に実施
4 学校における食に関する指導の推進【再】	保健体育、家庭科、生活科、総合的な学習の時間、特別活動の時間等を活用し、食に関する指導を推進する。	①			○			教育政策課	計画どおり実施	給食実施率100% 給食時間における食に関する指導をはじめ、各教科と関連付けながらの指導を実施
5 給食だより、食育だより等による啓発【再】	給食だより、食育だより等を通じた、児童生徒・保護者及び地域への啓発を行う。	①			○	○		学校教育課	計画どおり実施	小学校:100%、中学校:100%、義務教育学校100%
6 保健だより、給食だより等による啓発【再】	保健だより、給食だより等を通じた、児童生徒・保護者及び地域への啓発を行う。	①			○	○		教育政策課	計画どおり実施	給食だより、食育だより等を配付し、啓発を行った
7 健康講座(出前講座)	健康講座において、備蓄の必要性に関する内容を盛り込み、啓発を行う。	①			○	○		学校教育課	計画どおり実施	月1~2回保健だより、給食だより等を配布し、啓発を行った
8 健康相談(出張相談)【再】	いきいき健康チャレンジPRイベント等、量販店に出向き相談を実施する際に、啓発・情報提供を実施する。	①			○	○		健康増進課	計画どおり実施	啓発回数:7回 チラシ配布人数:131人
9 ヘルスメイトによる啓発活動	ヘルスメイトが実施する講習会において、備蓄の必要性に関する内容を盛り込み、啓発を行う。	①			○	○		健康増進課	変更して実施	開催回数:11回/参加者数:384人 新型コロナウイルス感染症予防のため、規模や内容を変更し実施。
10 啓発活動	リーフレットの配布やフェイスブック、ラジオ等を通じて、災害時における備蓄の啓発を行う。	①			○	○		健康増進課 市民生活活動推進課	計画どおり実施	参加者数:202人(雑談会場での啓発)
11 自主防災組織による炊き出し訓練の実施	発災時、ありあわせの食材を用いて食事を作り、その手順を共有するための訓練を実施している。	①			○	○		防災政策課	計画どおり実施	講習会や市民からの要望があった際のリーフレット配布やSNS、ラジオを通じて、災害時における備蓄の啓発を行った。

関連する目標 (指標)		現状値 (平成30年度)		目標値 (令和5年度)		
① 食品ロス削減のために何らかの行動をしている市民の割合		20~70歳代 98.0%		98%		
<p><今後の方向性></p> <ul style="list-style-type: none"> ・食品ロスの削減に関する啓発活動を継続して行います。 ・食品リサイクルを推進します。 						
取組名	内容	関連する目標 (指標)	ライフステージ (主な対象者)	所管課 関係団体	令和4年度 実施状況	令和4年度実績
1	園児や保護者への啓発		乳幼児 学童 思春期 青年期 成人期 高齢期	保育幼稚園課	計画どおり実施	給食室だより10月号を通じ、園児や保護者に食べ残しや食品ロス削減について啓発を行った。
2	学校給食を生きた教材として活用した食に関する指導	①	○	教育政策課	計画どおり実施	給食の残食量を毎食計量、記録した。給食の残量を少なくするための取組を行った (給食委員会、生徒会等)
3	学校における食に関する指導の推進【再】	①	○	教育政策課	計画どおり実施	給食実施率100% 給食時間における食に関する指導をはじめ、各教科と関連付けながらの指導を実施
4	学校における食に関する指導の推進			学校教育課	計画どおり実施	小学校：100%、中学校：100%、義務教育学校100%
5	給食だより、食育だより等による啓発【再】	①	○	教育政策課	計画どおり実施	給食だより、食育だより等配付し、啓発を行った
6	保健だより、給食だより等による啓発【再】	①	○	学校教育課	計画どおり実施	月1~2回保健だより、給食だより等配布し、啓発を行った
7	食べきり協力店登録制度	①	○	新エネルギー環境課	変更して実施	登録店舗数：21店舗 (新規登録3店舗) ※新型コロナウイルス感染症の影響につき、加入店舗増のため飲食店への訪問を自粛
8	忘年会・新年会はおいしく残さず食べまろう！全国共同キャンペーン	①	○	新エネルギー環境課	計画どおり実施	外食の機会が増える年末年始に合わせて、商会議所、青年会議所を通じて、各会員事業所へ全国共同キャンペーンの周知及び協力依頼を行うとともに、市ホームページや行内掲示等を活用して、市民等への啓発を行った。
9	環境学習	①	○	環境業務課	変更して実施	開催数：19回、参加者数：2,169人
10	ごみ出前講座	①	○	環境業務課	変更して実施	開催数：9回、参加者数：187人
11	食品ロスをテーマとしたイベントの実施	①	○	新エネルギー環境課	変更して実施	イオンモール高知でのSDGsイベントや、高知市教育委員会及び高知市学校給食会が主催する「食育実践発表会」にて、食品ロス問題に関するパネル展示等を実施し、周知・啓発を行った。 ・6/18 高知市環境啓発イベント (イオンモール高知) ・9/22・23 第7回市民が選ぶ高知市写真コンテスト2022 (イオンモール高知) ・10/15・16 食品ロス削減パネル展 (イオンモール高知) ・11/3 高知市COOL CHOICE 啓発イベント (イオンモール高知) ・2/23 令和4年度食育実践発表会 (オーテピア)

関連する目標（指標）	現状値 （平成30年度）	目標値 （令和5年度）
① 高知の食を豊かだと思おう市民の割合	20～70歳代 83.9%	93%
② 高知ならではの料理や食材を食べたことがある小中学生の割合	小学生 88.7%	98%
③ 高知ならではの料理や食材、食べ方などを、次世代に伝えていくことを大切だと思おう市民の割合	中学生 83.5%	92%
④ 地域の人や家族と高知の食を楽しむ市民の割合	20～70歳代 84.1%	90%
⑤ 保育所給食で使用する食材のうち、地場産品を活用する割合（重量ベース）	小学生 52.2%	62%
⑥ 学校給食で使用する食材のうち、地場産品を活用する割合（食材数ベース）	中学生 49.2%	60%
	20～70歳代 50.1%	60%
	保育所 45.3% (H29年度値)	55%
	学校 40.5% (H28年度値)	50%

＜今後の方向性＞

- ・ 関係者と連携し、高知の食（食材・食文化）を伝承・継承します。
- ・ 食卓の作法や日本ならではの食文化などを次世代へ伝承・継承します。
- ・ 地元客の街路市への呼び戻しと掘り起こしを行います。
- ・ 地産地消の推進のために直売所の活動を支援します。
- ・ 保育所や学校などでの地場産品の活用を推進します。
- ・ 給食に高知ならではの食材や郷土料理を取り入れ、子どもたちに高知の食のよさ、豊かさを伝えていきます。

取組名	内容	ライフステージ（主な対象者）				所管課 関係団体	令和4年度 実施状況	令和4年度実績
		関連する 目標（指標）	妊産婦・乳幼児（胎児）	児童・青少年 （幼児）	青年期 （思春期）			
1 給食を媒体とした食育活動	行事食、高知ならではの料理や食材、地域食材を給食で提供する。	②	○			保育幼稚園課	計画どおり実施	日々の給食で実施
2 給食日より等での周知・啓発	保護者に行事食、高知ならではの料理や食材、地域食材やその調理方法等を紹介する。	②③	○	○	○	保育幼稚園課	計画どおり実施	給食で取り入れながら、食育メニューにて周知（行事食）5・9・12・1・2・3月号 （旬食材・県産食材）5・6・7・9・10・1・2・3月号 給食室日より8・1月号（旬食材・県産食材）
3 給食での地場産品の活用推進	保育所給食での地場産品の活用を推進する。	⑤	○			保育幼稚園課	計画どおり実施	<H30年度実績>市立保育所：47.2%実施 ※令和4年度実績については現在集計中
4 食育実践発表会【再】	全国学校給食週間にあわせ、高知市立学校における食育や、学校給食について紹介するイベントを開催し、市民・学校・家庭・地域への啓発を行う。	①②③	○	○	○	教育政策課	計画どおり実施	令和5年2月23日（木） オナーテピアにて実施 入場者数：延べ1200人
5 夏休み親子料理教室	小学5年生児童とその保護者を対象に、高知の食べ物で血縁料理を作る。	①②③	○	○	○	教育政策課	中止	料理教室は中止 対象学年の5年生に血縁料理のレシピを配付したり、QRコードを活用した動画の配信を行った
6 小中学校食育・地場産品活用推進事業（体験学習）【再】	地域や関係団体等と連携し、食育体験学習を行い、食べ物や生産等にかかわる人々への感謝の心を育てることや、体験を通して地域の産業の特色や食文化について学ぶ。	①②③④		○		教育政策課	計画どおり実施	25校、38件
7 小中学校食育・地場産品活用推進事業（血縁料理モデル校）	小学4年生を対象として、モデル校の指定を行い、血縁料理の授業と血縁給食を実施する。	①②⑥		○		教育政策課	中止	新型コロナウイルス感染症拡大防止に配慮し、実施なし
8 高知の食べものいっぱい入っちゃおう日	毎月1回、地場産物活用割合60%以上（食材数ベース）を目指した献立を実施する。	①②⑥	○			教育政策課	計画どおり実施	62.6%（小中学校統一献立実施分）
9 自由献立の実施	学期に1回の自由献立の日を学校給食における「地産地消の日」として、収穫等の体験学習や教科のつながりをもった食材を取り入れることにより、学校の特色を活かした給食を実施する。	①②⑥	○			教育政策課	計画どおり実施	地産地消献立：食材数で48.8%
10 高知家のカレールー	11月に地産産物、県内産の食材を積極的に取り入れ、だしを味わうことができれば、汁等の献立を提供する。	①②⑥	○			教育政策課	計画どおり実施	全校で実施
11 だして味わわらう食の日【再】	地域の鮮魚店等の従事者を講師に招き、県内の水産物に関する学習と水産物の調理実習を行う。	①②④	○			教育政策課 県学校給食会	計画どおり実施	小学校2校で実施
12 「あの角盛さんがやっていた」料理体験教室	給食に活用した地場産物の紹介	①②⑤	○			教育政策課	計画どおり実施	給食に使用した地場産物に関する指導資料を作成し、給食放送等で児童生徒に啓発する。
13 農業体験学習推進事業	農業（酪農）体験学習を実施する。	②	○			農林水産課	計画どおり実施	酪農体験実施数：15校（児童 679名） 農業体験実施数：3校
14 学校給食用食材生産支援事業	農業者が取り組む学校給食用食材の生産経費に対する助成を実施する。	②⑥	○			農林水産課	計画どおり実施	補助実績：1件54千円
15 有機市民農園を通じて食の安全や環境保全への取組について関心をもつていただく	有機市民農園に取り組み高知地区漁業改良協議会に対して助成を実施する。	①	○	○	○	農林水産課	計画どおり実施	有機市民農園利用区画数：48区画
16 有機市民農園管理運営事業	魚食普及推進事業等に取り組み高知地区漁業改良協議会に対して助成を実施する。	①	○	○	○	農林水産課	中止	
17 水産業技術改良普及事業	高知市及び高知県産産物を本市の小中学校の給食用食材として提供することにより、長引くコロナ感染症の影響を受けた県内畜産業者や関係事業者を支援し、普及に繋げるとともに、児童生徒等に対して県産食材への理解を深める活動を併せて実施することにより、地産地消及び食育活動の推進を図る。	②⑤	○			農林水産課	計画どおり実施	・ 市内の小中学校における県産産物を使用した給食に係る費用を助成。 ・ 市内2校で出前授業を実施。

19	食をテーマに含むイベント 事業への補助	おきやくや血縁料理などをテーマとしたイベントへの開催補助を行い、イベントを通じて高知の食の豊かさをPRする。	①②④	○	○	○	○	○	○	観光魅力創造課	計画どおり実施	土佐の豊穡祭(高知市会場)・土佐の「おきやく」に対する高知市観光振興事業補助金 ：開催及び感染予防対策に対し補助支援を行った たまたき体験実施事業者のスタッフ不足等によるガイドコースの取り直し
20	観光客を対象としたまち歩きガイド事業	「龍馬の生まれたまち歩きへ土佐っ歩へ」における「龍の翼焼きたまたきコース」で、参加者に龍の翼焼きたまたきを体験していただく。	①③	○	○	○	○	○	○	観光魅力創造課	中止	たまたき体験実施事業者のスタッフ不足等によるガイドコースの取り直し
21	街路市活性化推進事業	地元客向けリーフレット等を作成し、配布する。	①							産業政策課	計画どおり実施	リーフレットを作成し公官庁施設に設置するとともに、日曜日やホテルなどで観光客の目にも留まるように設置し啓発した。
22	街路市活性化推進事業	食を通じて飲食店との連携事業を実施する。	①							産業政策課	計画どおり実施	TSUNAGUママーマーケットが月2回イベントスペースで開催し飲食店が出店した。
23	街路市活性化推進事業	小学校の授業や教材を通じて、街路市文化を伝承する。	②							産業政策課	変更して実施	出店者組合が主体となり保育園等74園にお買物券を配布。園児が街路市でお買い物体験をした。
24	街路市活性化推進事業	高知商業高校や高知大学等の日曜日での活動への協力等を実施する。	③							産業政策課	計画どおり実施	高知商業高校販売体験：19回 とさ自由中学校販売体験(木曜市)：2回 田野中学校販売体験：1回 土佐女子高校販売：2回
25	ヘルスマイムによる郷土料理講習会等への協力	学校における血縁給食や家庭科授業に協力し、郷土料理の作り方を伝える。	③							健康増進課 食育推進委員会	計画どおり実施	参加者数：203人

関連する目標 (指標)	現状値 (平成30年度)	目標値 (令和5年度)
① 栽培活動を含む農林漁業体験活動に取り組む 保育所・幼稚園・認定こども園・学校の割合	保育所 93.1% 幼稚園 100% 認定こども園 87.0% 小学校 82.9%	98% 100% 92% 92%
② 高知の食を豊かだと思ふ市民の割合	20～70歳代 83.9%	93%

<今後の方向性>

- ・農林漁業体験学習の取組を支援します。
- ・児童農園の取組を支援します。
- ・イベントや体験学習を通じて、生産者と消費者の交流を促す取組を支援します。
- ・栽培活動を通じ、農作物への興味や関心を育てます。

取組名	内容	関連する 目標(指標)	ライフステージ (主な対象者) (妊婦期、乳幼児、学童、青少年期、成人期、高齢期) (幼児、期、思春期)	所管課 関係団体	令和4年度 実施状況	令和4年度実績
1 保育所における栽培活動	保育所での栽培活動を通じ、農作物への興味や関心を育てる。	①	○	保育幼稚園課	計画どおり実施	日々の保育で実施
2 クッキング保育	保育所で栽培したもの等を調理し、共食することで、食への興味や関心を育てる。	①	○	保育幼稚園課	変更して実施	市立保育所・幼稚園：17園、延べ33回
3 小中学校食育・地場産品活用推進事業(体験学習)【再】	地域や関係団体等と連携し、食育体験学習を行い、食へ物や生産等にかかわる人々への感謝の心を育てることや、体験を通して地域の産物の特色や食文化について学ぶ。	①	○	教育政策課	計画どおり実施	25校、38件
4 収穫体験事業	小学校対象。種まきから収穫までの農業体験等を通じ、生産者への理解と感謝の気持ち育てる。	①	○	教育政策課 市学校給食会	計画どおり実施	小学校2校で実施
5 「あの魚屋さんがやってきた」料理体験教室【再】	地域の鮮魚店等の従事者を講師に招き、県内の水産物に関する学習と水産物の調理実習を行う。	①②	○	教育政策課 県学校給食会	計画どおり実施	小学校2校で実施
6 学校における食に関する指導の推進【再】	保健体育、家庭科、生活科、総合的な学習の時間、特別活動の時間等を活用し、食に関する指導を推進する。	①②	○	教育政策課	計画どおり実施	給食実施率100% 給食時間における食に関する指導をはじめ、各教科と関連付けながらの指導を実施 小学校：100%、中学校：100%、義務教育学校100%
7 農業体験学習推進事業【再】	農業(酪農)体験学習を実施する。	①	○	農林水産課	計画どおり実施	酪農体験実施数：15校(児童679名) 農業体験実施数：3校
8 学校給食用食料生産支援事業【再】	農業者が取り組む学校給食用食料の生産経費に対する助成を実施する。	②	○	農林水産課	計画どおり実施	補助実績：1件54千円
9 有機市民農園管理運営事業【再】	有機市民農園を通じて食の安全や環境保全への取組について関心をもってもらいたい。	②	○	農林水産課	計画どおり実施	有機市民農園利用区画数：48区画
10 水産業技術改良普及事業【再】	魚食普及推進事業等に取り組む高知地区漁業改良協議会に対して助成を実施する。	②	○	農林水産課	中止	
11 学校給食畜産物提供推進事業【再】	高知市及び高知県畜産物を本市の小中学校の給食用食料として提供する ことにより、長引くコロナ感染症の影響を受けた県内畜産業者や関係事業者を支援し普及定に繋げるとともに、児童生徒等に対して県産食料への理解を深める活動を併せて実施することにより、地産地消及び食育活動の推進を図る。	②	○	農林水産課	計画どおり実施	・市内の小中学校における県産畜産物を使用した給食に係る費用を助成。 ・市内2校で出前授業を実施。

令和4年度 主要取組報告 (2)豊かな食を実現するための食育

④人の輪をつなげるための取組 (第3次高知市食育推進計画 P22)

関連する目標 (指標)	現状値 (平成30年度)	目標値 (令和5年度)
① 「食育」の取組をしている市民の割合	98.1%	100%
② 高知ならではの料理や食材、食べ方などを、次世代に伝えていくことを大切だと思う市民の割合	84.1%	90%
③ 地域の人や家族と高知の食を楽しむ市民の割合	52.2%	62%
	49.2%	60%
④ 高知市食育推進計画に基づき、連携・協働して食育活動に取り組む団体等の数	50.1%	60%
	10 団体	15 団体

＜今後の方向性＞

- ・こうちし食育やぞねっとによる連携・協働の活性化をすすめます。
- ・地域の伝統行事など、地域文化に触れる体験や学習などの事業を企画検討します。
- ・コミュニケーションや豊かな食体験にもつながる其食の機会の仕組みづくりをすすめます。

取組名	内容	関連する目標 (指標)	ライフステージ (主な対象者)	所管課 関係団体	令和4年度 実施状況	令和4年度実績
1	こうちし食育やぞねっとによるネットワークの構築	④	乳幼児 学童 青年期 成人期 高齢期	食育推進委員会	計画どおり実施	登録団体数：14 団体 (2 団体増) 情報交換会：令和4年6月27日開催 やぞねっと登録団体の連携による取組の実施
2	食育日より「わたしから始まる高知の食育」による情報発信			食育推進委員会	計画どおり実施	Vol.121～Vol.132 発行
3	ふれあい給食事業	③		教育政策課 市学校給食会	中止	新型コロナウイルス感染症拡大防止に配慮し、実施なし
4	食育推進支援事業 (食事提供活動支援事業)	①④		教育政策課 市学校給食会 食育推進委員会	計画どおり実施	小学校1校で実施
5	市民学校・成人講座・市民講座	③		文化振興課	変更して実施	(R4年度実績) 開催数：22 回 中止：1 回 (新型コロナウイルス感染拡大のため)
6	世代間交流ふれあい事業	②③		文化振興課	計画どおり実施	(R4年度実績) 開催数：3 回
7	地域での食を通じたイベントの開催			地域コミュニティ推進課 地域連携協議会等	中止	地域が主体となって地域コミュニティ推進等に取り組みむ活動のうち、食に関するもの。令和4年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止。
8	地域での食の集いの場における世代間交流の推進			地域コミュニティ推進課 地域連携協議会等	変更して実施	地域が主体となって地域コミュニティ推進等に取り組みむ活動のうち、食に関するもの。令和4年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、感染対策を徹底した上で実施している地域あり。
9	ヘルスマイト育成・養成事業	①③		健康増進課	計画どおり実施	ヘルスマイト会員数：112 人 (令和4年4月現在)
10	口からはじめる食育推進事業	①③		健康増進課 学校教育課 高知学園短科大学	変更して実施	高知学園短大学生による歯科保健指導 小学校：22 校、中学校：4 校 *実習は行わず講話形式で実施
11	第3次高知市食育推進計画の周知・啓発	④		健康増進課 食育推進委員会	計画どおり実施	・市ホームページによる情報発信 ・高知市役所1階、2階食堂、オーテピアにおける啓発 ・食育実践発表会、防災講座等庁内関係課との連携による啓発 ・学生の保健所実習の機会を捉え、若い世代を意識した啓発活動を実施。 ・関係企業との連携・協働により、第3次高知市食育推進計画に基づいた情報発信・啓発活動を実施。
12	関係企業との連携・協働による取組			健康増進課 食育推進委員会	計画どおり実施	・関係企業との連携・協働により、第3次高知市食育推進計画に基づいた情報発信・啓発活動を実施。 (高知市役所食堂、イオンモール高知、ファミリーマート)

令和5年度 主要取組予定



＜今後の方向性＞

- ・健康づくりや生活習慣病の予防・疾病管理のために、減塩、適正飲酒について啓発を行います。
- ・バランスよく食べるために、主食・主菜・副菜の組み合わせ、野菜の摂取について啓発を行います。
- ・ゆつくりよくかんで食べることで効果について啓発を行います。
- ・関係機関との協働により、健康づくりや生活習慣の改善に取り組む環境づくりを行います。

2 生活習慣病を予防するための取組

取組名	内容	所属課 関係団体	令和4年度の実績	方向性	令和5年度の予定 取組方法等
1 ババママ教室	食生活バランスチェックを行い、毎日の食事を見直してもらおう。	母子保健課	開催数：18回、参加者数264人（妊婦134人、同行者130人） 新型コロナウイルス感染症対策の為、SAT システムの利便性を活用し、講義の中で説明しチラシを配布。	継続 (条件付き)	ババママ教室の内容の見直しにより、R5年度はSAT システムは利用せず、講義の中で説明し、チラシを配布。
2 学校給食を生きた教材として活用した食に関する指導の推進【再】	児童生徒への食に関する指導やPTA対象の献食会の機会を通して、栄養バランスのとれた望ましい食事について啓発する。	教育政策課	給食回数：小学校197回、中学校195回 給食試食会：6校/113人参加	継続	給食回数：小学校198回 中学校195回 給食試食会の実施。
3 学校における食に関する指導の推進【再】	保健体育、家庭科、生活科、総合的な学習の時間、特別活動の時間等を活用し、食に関する指導を推進する。	教育政策課	給食実施率100% 給食時間における食に関する指導をはじめ、各教科と関連付けながらの指導を実施	継続	特別活動や教科等の時間に食育の視点を取り入れた食に関する指導の実施。
4 給食だより、食育だより等による啓発【再】	給食だより、食育だより等を通じた、児童生徒・保護者及び地域への啓発を行う。	教育政策課	給食だより、食育だより等を配付し、啓発を行った。	継続	給食だより、食育だより等を配付し、啓発を行う。
5 保健だより、給食だより等による啓発【再】	保健だより、給食だより等を通じた、児童生徒・保護者及び地域への啓発を行う。	学校教育課	月1～2回保健だより、給食だより等を配付し、啓発を行った。	継続	季節や行事など時期を捉えて、食と健康に関する内容を児童生徒や保護者へ発信していく。
6 9年間の食に関する指導案の作成【再】	小学1年生から中学3年生までの食に関する指導の学習指導案を作成し、学校で活用する。	教育政策課	義務教育9年間分の指導案並びに指導資料の作成	継続	義務教育9年間における食に関する指導案を全校に配付。
7 健康講座（出前講座）【再】	広聴広報課発信の「あなたに届け隊出前講座」において、申込団体に健康教育を実施する。	健康増進課	開催数：23回/参加者数：411人	継続	申込団体に実施する。栄養バランスのとれた食事と併せて高血圧の健康影響・減塩の重要性について啓発する。開催数25回実施予定。
8 健康相談（出張相談）	いきいき健康チャレンジPRイベント等、量販店に出向き、相談および啓発を実施する。	健康増進課	開催数：11回/参加者数：384人 新型コロナウイルス感染症予防のため、規模や内容を変更し実施。	継続	いきいき健康チャレンジ協力団体を中心に実施予定。血圧測定をきっかけに、減塩や高血圧などについて啓発する。
9 女性健診結果説明会	健診結果を返す際に説明会を開催し、健康増進や生活習慣病の発症・重症化予防の講座を行う。	健康増進課	開催数：4回/参加者数：39人	継続	塩分味覚域チェックの実施や、栄養バランスなど生活習慣に関心をもてるような啓発を行う。年4回（9月、11月、R6年1月、3月）実施予定。
10 いきいき健康チャレンジ関連イベント（スタートイベント・応援講座・結果報告会）	関係団体（高知県栄養士会・ヘルスマイト・協会けんぽ）と連携して、健康増進の観点から栄養バランスや減塩について普及・啓発を行う。	健康増進課	スタートイベント実施/参加者35人 応援講座2回実施（1回は新型コロナウイルス感染症拡大のため中止）/参加人数：121人 結果報告会中止（新型コロナウイルス感染症拡大のため）	継続	スタートイベント（5/28）、応援講座（栄養編7月予定、運動編9月予定、その他10月予定）、結果報告会（R6年2/11）実施予定。 健康に関する講義講演、情報提供コーナーにて減塩や栄養バランス等について啓発を行う。
11 生活習慣病予防に関する協議会	生活習慣病の予防対策を推進するため、関係機関と具体的な方策について協議し、啓発活動や環境づくり等の取組につなげる。	健康増進課	2回実施。「すべての市民が健康でいられる高知市」をめざし、情報発信や環境づくりについて協議。	継続	年2回（7月、R6年1月）実施予定。
12 ヘルスマイトによる啓発活動【再】	ヘルスマイトが実施する講習会において「主食・主菜・副菜をそろえて食べる」との大切さを啓発する。	市食生活改善推進協議会	参加者数：998人（女性健診での啓発）	継続	家庭での実践につながるよう、チラシとサンプル食材を用いた啓発を行う。
13 ヘルスマイトによる野菜料理レシピの考案および啓発活動	ヘルスマイトが高知食材を使用した野菜料理レシピを考案し、そのレシピを用いて、講習会において「野菜を食べること」の大切さを啓発する。	市食生活改善推進協議会	参加者数：367人（市役所食堂レストラン、イオンモール高知SUGS イベントでの啓発）	継続	イベントや健診の機会にはチラシやフードモデルを用いた啓発を行う。
14 ヘルスマイトによる啓発活動	ヘルスマイトが実施する講習会において、減塩に関する内容を盛り込み、啓発を行う。	健康増進課	参加者数：101人（特野地区健診での啓発）	継続	地域での調理実習や講話による啓発を行う。また健診やイベントの機会にはチラシ等による啓発を行う。
15 ヘルスマイトの料理実習	結婚を考える20歳代～40歳代の男女の出会いイベントを通して、健康的な生活習慣や食生活を伝えるとともに、料理経験の少ない若い世代の食生活の自立を促す。	市食生活改善推進協議会	中止	中止	他の取組（取組名No.12）に含めることとする。
16 特定健康診査・特定保健指導	40～74歳の高知県国民健康保険者にメタボリックシンドローム（通称：メタボ・内臓脂肪症候群）をはじめとする生活習慣病の早期発見・早期予防を目的とした健診・保健指導を実施する。	保険医療課	＜令和3年度実績＞ ※令和3年度特定報告書より 特定健康診査受診率：29.1% 特定保健指導実施率：38.8%	継続	特定健康診査受診率を6月に発表。健診結果により、保健指導対象者を選定し、通知後、訪問等にて保健指導を行う。
17 高知市国保若年者健康診査・保健指導	39歳の高知市国民健康保険者にメタボリックシンドローム（通称：メタボ・内臓脂肪症候群）をはじめとする生活習慣病の早期発見・早期予防を目的とした健診・保健指導を実施する。	保険医療課	若年者健康診査受診者：66名 特定保健指導対象者：16名	継続	健康診査受診率を9月頃に発表。健診結果により、保健指導対象者を選定し、通知後、訪問等にて保健指導を行う。

令和5年度 主要取組予定



<今後の方向性>
 ・「低栄養」について、知識や理解の普及啓発を行います。
 ・若い女性の栄養状態が、次世代への健康につながることを啓発を行います。
 ・食の機会を通じた集いの場づくりを推進します。

3 低栄養を予防するための取組

取組名	内容	所属課 関係団体	令和4年度の実績	方向性	令和5年度の取組状況 取組方法等
1 パパママ教室【再】	食生活バランスチェックを行い、毎日の食事を見直しもらう。	母子保健課	開催数：18回、参加者数264人（妊婦134人、同行者130人） 新型コロナウイルス感染症対策の為、SAT システムの活用を中止し、講義の中で説明しチラシを配布。	継続 (※再付き)	パパママ教室の内容の見直しにより、R5年度はSAT システムは利用せず、講義の中で説明し、チラシを配布。
2 学校における食に関する指導の推進	保健体育、家庭科、生活科、総合的な学習の時間、特別活動の時間等を活用し、食に関する指導を推進する。	教育政策課	給食実施率100% 給食時間における食に関する指導をはじめ、各教科と関連付けながらの指導を実施	継続	特別活動や教科等の時間に食育の視点を取り入れた食に関する指導の実施。
3 中学生に対する食に関する指導の推進	体育科、保健体育科、家庭科、総合的な学習の時間、特別活動の時間等を活用し、食に関する指導を推進する。	学校教育課	中学校：100%、義務教育学校100%	継続	体育科、保健体育科、家庭科、生活科、総合的な学習の時間、特別活動の時間等を活用し、食に関する指導を推進。
4 給食だより、食育だより等による啓発【再】	児童生徒への食に関する指導やPTA対象の飲食会の機会を通して、栄養バランスのとれた望ましい食事について啓発する。	教育政策課	給食回数：小学校197回、中学校195回 給食試食会：6校/113人参加	継続	給食回数：小学校198回 中学校195回 給食試食会の実施。
5 給食だより、食育だより等による啓発【再】	給食だより、食育だより等を通じた、児童生徒・保護者及び地域への啓発を行う。	教育政策課	給食だより、食育だより等を配付し、啓発を行った 月1~2回保健だより、給食だより等を配布し、啓発を行った	継続	給食だより、食育だより等を配布し、啓発を行う。
6 健康講座 いきいき百歳体操サポーター養成	高齢期における低栄養予防の意識づくりなど、介護予防事業を展開する。	基幹型 地域包括支援センター	地域の健康講座28回/398人 サポーター養成2回/32人 ※新型コロナウイルス感染症拡大により、支援回数や規模縮小	継続	老いを遅らせる栄養改善活動について10食品群チェックシートを活用した健康講座を実施。 いきいき百歳サポーター養成教室にて、老化を遅らせる栄養改善活動についての講義を実施。サポーター養成教室3回/年間開催予定。
7 低栄養予防プログラム	高齢期における低栄養予防の意識づくり、低栄養にならない食習慣の獲得。	基幹型 地域包括支援センター	いきいき百歳体操の18会場19グループ（4回コース/会場）で実施 18会場19グループ：支援回数59回（コロナによる中止1回、残り支援回数6回）/延べ参加者数：726人 ※新型コロナウイルス感染症拡大により、規模縮小	継続	いきいき百歳体操会場において、10食品群チェックシートを活用した栄養改善活動を実施。
8 健康講座（出前講座）【再】	広聴広報課発信の「あなたに届け隊出前講座」において、申込団体に健康教育を実施する。	健康増進課	開催数：23回/参加者数：411人	継続	申込団体に実施する。栄養バランスのとれた食事と併せて高血圧の健康影響・減塩の重要性について啓発する。開催数25回実施予定。
9 女性健診・結果説明会	健診や結果説明会の際に、貧血予防の啓発や保健指導を実施する。	健康増進課	開催数：4回/参加者数：39人	継続	塩分味覚域チェックの実施や、栄養バランスなど生活習慣に関心をもてるような啓発を行う。年4回（9月、11月、R6年1月、3月）実施予定。
10 ヘルスマイトによる啓発活動	ヘルスマイトが実施する講習会において、「低栄養予防」の啓発を行う。	健康増進課 市食生活改善推進協議会	開催数：43回/参加者数：507人	継続	地域での調理実習や講話による啓発を行う。
11 ヘルスマイトによる啓発活動【再】	健康増進課実施の女性健診において、ヘルスマイトが若い世代の女性に対し、栄養バランス・朝食の大切さなどの啓発を行う。	健康増進課 市食生活改善推進協議会	参加者数：110人（女性健診での啓発）	継続	家庭での実践につながるように、チラシとサンプル食材を用いた啓発を行う。

令和5年度 主要取組予定

4 歯と口の健康のための取組

取組名	内容	所管課 関係団体	令和4年度の実績	方向性	令和5年度の取組状況 取組方法等
1 パパママ教室	細菌カウンタ（口腔内細菌数チェック）にて、口腔状況を確認する。	母子保健課	開催数：18回、参加者数264人（妊婦134人、同行者130人） 細菌カウンタは中止し、講義の中で保護者の口の中の健康について説明。チラシ配布。	継続	保護者の歯と口の健康について講義の中で説明する。妊婦歯科健診、歯周病予防について啓発チラシを配布する。
2 離乳食教室や育児講座での普及啓発	口腔機能の発達に合わせた離乳食について説明する。 離乳食教室において、細菌カウンタ（口腔内細菌数チェック）にて、保護者の口腔状況を確認する。	母子保健課	開催数：18回、参加者数264人（妊婦134人、同行者130人） 細菌カウンタは中止し、講義の中で保護者の口の中の健康について説明。チラシ配布。	継続	保護者の歯と口の健康について講義の中で説明する。お口の健康チェック、歯周病予防について啓発チラシを配布する。
3 幼児健診での普及啓発	歯磨き、仕上げ磨き、フッ化物活用などの啓発を行う。 子どもの口の発達に合わせた食べ方の啓発を行う。	母子保健課	1.6児歯科健診：41回（2,401人受診）、3歳児歯科健診：41回（2,336人受診） 15か所94組	継続	健診や個別指導の場で、普及啓発及び保健指導を行う。
4 子育て支援センターでの育児講座	歯の健康をテーマとした健康講座を実施する。 子どもの口の発達とむし歯予防についての啓発を行う。	母子保健課	給食室より5・6・7・8・9・10・1・3月号 食育メモ8・11月号 ほけんだより6・11月号	継続	子育て支援センター16か所で行って実施予定
5 保護者への啓発	園だよりの発行、ほけんだより等を通じ、口の発達に応じた食事の提供や、よくかんで食べる等の啓発を行う。	保育幼稚園課	日々の給食で実施	継続	
6 発達に応じた給食の提供	口の発達段階に応じた給食や調理形態に配慮した給食の提供を行う。	保育幼稚園課		継続	
7 歯科口腔健康指導 口からはじめる食育推進事業	高知学園短大の学生実習と連携し、小中学校において歯肉炎予防にかむことをテーマとした歯科健康指導を実施する。また、健康教育の前後に「食と生活のアンケート」を実施する。	学校教育課 健康増進課	高知学園短大学生による歯科保健指導 小学校22校、中学校4校に講話を実施	継続	小学校3、4年生と中学生を対象に、高知学園短期大学生による講義形式での指導。健康教育前後に「食と生活のアンケート」を実施する。
8 授業等における歯の健康に関する指導	養護教諭、担任、担当教諭による指導を実施する。	学校教育課	高知市立学校全校で実施	継続	歯・口の健康づくりについて、歯みがき指導、間食の取り方についても実践的な指導を行う。
9 かみかみ献立	歯と口の健康週間やいい歯の日に合わせ、6月と10月にかみごたえのある食材を多く取り入れた献立を実施する。	教養政策課	全校で実施	継続	全高知市立学校で実施。
10 給食だより、食育だより等による啓発	給食だより、食育だより等を通じた、児童生徒・保護者及び地域への啓発を行う。	教養政策課	給食だより、食育だより等配付し、啓発を行った	継続	給食だより、食育だより等を配布し、啓発を行う。
11 保護だより、食育だより等による啓発	保護だより、食育だより等を通じた、児童生徒・保護者及び地域への啓発を行う。	学校教育課	高知市立学校全校で実施	継続	季節や行事など時期を捉えて、食と健康に関する内容を児童生徒や保護者へ発信していく。
12 かみかみ百歳体験の普及啓発	住民主体の介護予防活動の支援において、口腔機能向上のためのかみかみ百歳体験の普及啓発と実施支援を行う。支援の中で、「かかりつけ歯科医」をもつことについても啓発する。	健康増進課 基幹型 地域包括支援センター	支援回数：53回、健康講座：9回 ※新型コロナウイルス感染症拡大により、支援回数や規模縮小 コロナの影響で中止時期あり	継続	しつかり食べられる口腔機能を維持するため「かみかみ百歳体験」を体験会場で導入・継続できるよう支援する。健康講座を実施し、「口腔ケア」の普及啓発に努める。
13 放課後児童クラブでの健康講座	夏休み期間中の児童クラブで「口の健康とかむこと」について健康講座を開催する。	健康増進課	開催数：41回（19校） 参加者数：1,034人	継続	紙芝居を活用しての説明、あいうべ体操の体験を実施
14 出前講座	広聴広報課発達の「あなたに届け隊出前講座」において、歯周病と全身疾患の関係「オーラルフレイル予防」「備えて安心！食と口腔ケア」をテーマに申込団体に健康指導を実施する。	健康増進課	開催数：5回、参加者数：57人	継続	「歯周病と全身疾患の関係」「オーラルフレイル予防」をテーマに実施
15 歯つびいスマイルフェア	11月のいい歯の日の啓発イベントを実施 SDGs関連イベントとして「食育からはじまる健康づくり」をテーマに申込団体に健康指導を実施する。	健康増進課 市歯科医師会	11月にSDGs関連イベントとして「食育からはじまる健康づくり」をテーマに実施（高知市、高知市歯科医師会主催） 全体来場者：1,474名 健口チェック：45名	継続	イオンモール高知でSDGs関連イベントとして実施予定
16 成人歯周病健診事業	個別歯科医療機関における歯周病健診を実施する。	健康増進課	受診者数：501人（令和5年4月報告分）	取組内容の見直し	令和4年度までは、40歳、50歳だったが、60歳も対象とする。
17 女性健診における歯科健診	子宮がん検診と内科健診セットで歯周病健診と口腔衛生指導を実施する。	健康増進課	4回実施 受診者数：149人	継続	令和4年度と同様に実施
18 若い世代・働き世代への保健指導	母子保健課事業の離乳食教室、パパママ教室参加者の全体の講義の中に歯科の内容を盛り込み、集団での保健指導を実施する。 保険医療課主催の結果説明会で、歯科衛生士による保健指導の実施や、集団の特定健診受診者へチラシによる普及啓発を実施する。	健康増進課	集団指導（母子保健課事業、結果説明会）：37回 596名 特定健診（集団）での普及啓発（チラシ配布）：1,440名 個別指導は行わず、総合保健協会の協力を受診者全員に啓発チラシを送付	継続	母子保健事業は令和4年度と同様に実施 個別指導はコロナの状況を見ながら、簡易な検査等の実施を検討していく 総合保健協会の協力で、特定健診（集団）の受診者全員に生活習慣病予防の啓発を行う。
19 いきいき健康チャレンジと連携した啓発・保健指導	チャレンジ記録ノートに、歯科健診・受診のチェック項目やかむことに関する啓発、応援講座での個別指導、量販店等での普及啓発を実施する。	健康増進課	スタートイベントでの歯科講演：35名 歯科健診受診者数（チャレンジノート回答）N=1,077 チャレンジ前：69.3%、チャレンジ後：74.7%	継続	生活習慣病予防の一環として、成人保健担当と一緒に普及啓発を行う。 いく。

＜今後の方向性＞
・子どもの口の発達に応じた食べ方の啓発を行います。
・子どもの口の発達に合わせた食べ方の改善のために口の体操を普及します。特に、幼児期・学童期を重点に取り組みます。
・口の機能や口呼吸の改善のことが歯の健康や生活習慣病予防と関係しています。特に、幼児期・学童期を重点に取り組みます。
・しつかりよくかんで食べることで歯の健康や生活習慣病予防と関係しています。
・「かかりつけ歯科医」をもち、口の健康管理をすることを継続して啓発します。
・ライブステージに応じた啓発を行います。

令和5年度 主要取組予定

5 安全な食生活を送るための取組

<今後の方向性>

- ・手洗いの大切さの啓発を行います。
- ・食中毒予防の三原則の啓発を行います。
- ・子どもの頃から生活における手洗い等の衛生習慣を意欲づけられます。
- ・鶏肉の生食の危険性の普及啓発を継続して行います。
- ・焼肉の際のトングと箸の使い分けや加熱調理の徹底の普及啓発を継続して行います。
- ・カキなどの二枚貝の生食の危険性の普及啓発を行います。

取組名	内容	所管課 関係団体	令和4年度の実績	方向性	令和5年度の取組状況 取組方法等
1 食事前等の手洗いについて声かけ	子どもの頃から手洗い等の衛生習慣を意欲づける。	保育幼稚園課	日々の保育で実施	継続	
2 保護者への啓発	園だより、給食室だより、ほげんだより等を通じ、衛生習慣についての啓発活動を行う。	保育幼稚園課	給食室だより7-2月号、食育メモ6・11・12月号、ほげんだより12月号にて手洗い等衛生習慣について啓発	継続	
3 学校給食を生きた教材として活用した食に関する指導	給食準備における手洗い、身支度等に関する指導を通して、衛生的な給食実施に取り組む。	教育政策課	給食準備における手洗い、身支度等に関する指導を実施	継続	給食準備における手洗い、身支度等に関する指導を実施。
4 給食だより、食育だより等による啓発	給食だより、食育だより等を通じた、児童生徒・保護者及び地域への啓発を行う。	教育政策課	給食だより、食育だより等を配付し、啓発を行った	継続	給食だより、食育だより等を配布し、啓発を行う。
5 保健だより、給食だより等による啓発	保健だより、給食だより等を通じた、児童生徒・保護者及び地域への啓発を行う。	学校教育課	月1~2回保健だより、給食だより等を配布し、啓発を行った	継続	季節や行事など時期を捉えて、食と健康に関する内容を児童生徒や保護者へ発信していく。
6 広報「あかるいまち」やホームページによる広報	広報「あかるいまち」やホームページを活用し、広く市民に食の安全に関する情報を発信する。	生活食品課	あかるいまち 8月：アニカキスによる食中毒が増えています!!! 12月：ノロウイルス食中毒に注意!	継続	・「あかるいまち」8月・12月予定 ・ホームページ 市民にわかりやすいページの作成を検討中
7 消費者を対象とした食品衛生講習会の開催	広聴広報課発信の「あなたに届け隊出前講座」や、児童とその保護者を対象とする食品衛生教室等で、自らを守る食中毒予防に関する正しい知識について普及啓発する。 <健康講座（出前講座）、親子食品衛生教室>	生活食品課	健康講座：3回/25名 (依頼はあったが、感染拡大により中止したものを除く) 親子食品衛生教室：開催見合わせ	継続	・健康講座（出前講座） ・親子食品衛生教室
8 事業者を対象とした食品衛生講習会の開催	事業者を対象とする各種講習会等において、食中毒予防に関する正しい知識等について普及啓発する。 <営業許可証交付講習会、食品衛生責任者養成講習会、事業者・給食関係者等講習会、食品関係事業者の監視指導>	生活食品課	営業許可証交付講習会：22回/1,013名 食品衛生責任者養成講習会：7回/512名 食品衛生責任者実務講習会：3回/58名 事業者・給食関係者等講習会：26回/772名 その他の講習会：16回/488名 食品関係事業者の監視指導：3,115件	継続	営業許可証交付講習会、食品衛生責任者養成講習会、事業者・給食関係者等講習会を開催、食品関係事業者の監視指導の実施
9 食の安全に関するリスクコミュニケーションの開催	消費者・事業者・行政が食の安全に関する正確な情報を共有する機会をもつことで、様々な立場でそれぞれ主体的に食の安全への関わりが持てるような正確な情報の共通認識を目指す。	生活食品課	新型コロナウイルス感染症状況により開催見合わせ	継続	食の安全に関するリスクコミュニケーションを開催

令和5年度 主要取組予定

<今後の方向性>

- ・備蓄の必要性について、啓発を行います。
- ・飲料だけでなく主食・副食など備えが充実するよう、備蓄食の内容について、啓発を行います。
- ・子どもの頃から「災害に備える」知識や理解を深めるための啓発を行います。

6 災害に備えるための取組

取組名	内容	所管課 関係団体	令和4年度の実績	令和5年度の取組状況	
				方向性	取組方法等
1 保育所等における備蓄食の確保	保育所で被災することを想定し、園児・職員の備蓄食の確保を行う。	保育幼稚園課	市立保育所26園、市立幼稚園1園に備蓄食を整備	継続	
2 保育所給食での備蓄食の提供	備蓄食を給食として提供・喫食することにより、災害時に備えた取組を行う。	保育幼稚園課	上記の施設で賞味期限の入れ替えの際に給食として提供し、実際に食べる練習をした	継続	
保護者への啓発	園日より、給食室日より等を通じ、備蓄の必要性を含めた災害への備えについての啓発活動を行う。	保育幼稚園課		新規	
3 防災給食の実施	9月に1回実施、災害時の食を通し、災害に備えようとする意識を高める機会とする。	教育政策課	小学校37校、中学校4校、義務教育学校2校で実施 春野東小・春野西小は10月に実施 特別支援学校は11月に実施	継続	高知市立全学校で実施。
4 学校における食に関する指導の推進	保健体育、家庭科、生活科、総合的な学習の時間、特別活動の時間等を活用し、食に関する指導を推進する。	教育政策課	給食実施率100% 給食時間における食に関する指導をはじめ、各教科と関連付けながらの指導を実施	継続	特別活動や教科等の時間に食育の視点を取り入れた食に関する指導の実施。
5 給食日より、食育日より等による啓発【再】	給食日より、食育日より等を通じた、児童生徒・保護者及び地域への啓発を行う。	学校教育課	小学校:100%、中学校:100%、義務教育学校100%	継続	特別活動の時間等を活用し、食に関する指導を推進。
6 保健だより、給食だより等による啓発【再】	給食だより、食育だより等を通じた、児童生徒・保護者及び地域への啓発を行う。	教育政策課	給食だより、食育だより等を配付し、啓発を行った	継続	給食だより、食育だより等を配布し、啓発を行う。
7 健康講座（出前講座）	健康講座において、備蓄の必要性に関する内容を盛り込み、啓発を行う。	学校教育課	月1〜2回保健だより、給食だより等を配布し、啓発を行った	継続	季節や行事など時期を捉えて、食と健康に関する内容を児童生徒や保護者へ発信していく。
8 健康相談（出張相談）【再】	いきいき健康チャレンジPRイベント等、量販店に出向き相談を実施する際に、啓発・情報提供を実施する。	健康増進課	啓発回数：7回 チラシ配布人数：131人 開催回数：11回/参加者数：384人 新型コロナウイルス感染症予防のため、規模や内容を変更し実施。	継続	申込団体に実施予定。チラシを配布し、災害時に備えた備蓄の必要性を啓発する。開催数28回実施予定。
9 ヘルスメイトによる啓発活動	ヘルスメイトが実施する講習会において、備蓄の必要性に関する内容を盛り込み、啓発を行う。	健康増進課 市食生活改善推進協議会	参加者数：202人（健診会場での啓発）	継続	いきいき健康チャレンジ協力団体を中心に実施予定。血圧測定をきっかけに、減塩や高血圧などについて啓発する。
10 啓発活動	リーフレットの配布やフェイスブック、ラジオ等を通じて、災害時における備蓄の啓発を行う。	防災政策課	講習会や市民からの要望があった際のリーフレット配布やSNS、ラジオを通じて、災害時における備蓄の啓発を行った。	継続	地域での調理実習や講話による啓発を行う。また健診やイベントの機会にはチラシ等による啓発を行う。
11 自主防災組織による炊き出し訓練の実施	防災時、ありあわせの食材を用いて食事を作り、その手順を共有するための訓練を実施している。	地域防災推進課	実施団体数：43	継続	リーフレットの配布やツイッター、ラジオ等を通じて、災害時における備蓄の啓発を行う。 自主防災組織の活動に対する補助金等によって、地域での訓練実施を後押ししていく。

令和5年度 主要取組予定

(2)豊かな食を実現するための食育

1 環境を大切にするための取組

<今後の方向性>
 ・食品ロスの軽減に関する啓発活動を継続して行います。
 ・食品リサイクルを推進します。

取組名	内容	所属課 関係団体	令和4年度の実績	方向性	令和5年度の取組状況 取組方法等
1 園児や保護者への啓発	給食室日より等を通じ、園児や保護者に食べ残しや食品ロス削減について啓発を行う。	保育幼稚園課	給食室日より10月号を通じ、園児や保護者に食べ残しや食品ロス削減について啓発を行った。	継続	
2 学校給食を生きた教材として活用した食に関する指導	給食の残食量を毎食計量、記録する。 給食の残食を少なくする取組を行う（給食委員会等）。	教育政策課	給食の残食量を毎食計量、記録した。給食の残食を少なくするための取組を行った（給食委員会、生徒会等）	継続	給食の残食量を毎食計量、記録した。給食の残食を少なくする取組を行う（給食委員会等）。
3 学校における食に関する指導の推進	保健体育、家庭科、生活科、総合的な学習の時間、特別等を活用し、食に関する指導を推進する。 体育科、保健体育科、家庭科、生活科、総合的な学習の時間、特別活動の時間等を活用し、食に関する指導を推進する。	教育政策課	給食実施率100% 給食時間における食に関する指導をはじめ、各教科と関連付けながらの指導を実施	継続	特別活動や教科等の時間に食育の視点を取り入れた食に関する指導の実施。 体育科、保健体育科、家庭科、生活科、総合的な学習の時間、特別活動の時間等を活用し、食に関する指導を推進。
4 給食日より、食育日より等による啓発【再】	給食日より、食育日より等を通じた、児童生徒・保護者及び地域への啓発を行う。	学校教育課	小学校：100%、中学校：100%、義務教育学校 100%	継続	給食日より、食育日より等を配布し、啓発を行う。
5 保健日より、給食日より等による啓発【再】	保健日より、給食日より等を通じた、児童生徒・保護者及び地域への啓発を行う。	教育政策課	給食日より、食育日より等配付し、啓発を行った 月1〜2回保健日より、給食日より等配布し、啓発を行った	継続	季節や行事など時期を捉えて、食と健康に関する内容を児童生徒や保護者へ発信していく。
6 食べきり協力店登録制度	外食時の食べ残しの削減に積極的に取り組んでいただけた市内の飲食店・宿泊施設等の店舗を「高知市食べきり協力店」として募集・登録し、市民に周知することで、食べ残しの削減に対する市民の意識の高揚を図るとともに、市民、事業所及び行政が一体となった食べきり運動の推進を図る。	新エネルギー・環境政策課	登録店舗数：21店舗（新規登録3店舗） ※新型コロナウイルス感染症の影響につき、加入店舗増のための飲食店への訪問を自粛	継続	ホームページ等での協力店の周知及び登録店舗数の増加に努める。
7 忘年会・新年会はおいしく残さず食べきろう！全国共同キャンペーン	食品ロス削減に取り組む自治体間のネットワークである「全国おいしい食べきり運動ネットワーク協議会」の全国共同キャンペーンとして、30・10運動等、宴会時の食べ残しを減らすための周知・啓発を行う。	新エネルギー・環境政策課	外食の機会が増える年末年始に合わせて、商工会議所、青年会議所を通じて、各会員事業所へ全国共同キャンペーンの周知及び協力依頼を行うとともに、市ホームページや庁内掲示等を活用して、市民等への啓発を行った。	継続	庁内掲示等を活用し、本市職員に協力を呼びかけるとともに、商工会議所、青年会議所等を通じて周知啓発を行う。
8 環境学習	保育園等では、環境業務課職員による寸劇「環境選隊クリーレンレンジャー」を通じ、親子でごみの分別等を学んでもらう中で、好き嫌いや食べ残しをなくす必要性を説明する。また、小学校や大学等では、授業や講義の中で食品ロスの問題についての周知・啓発を行う。	環境業務課	開催数：19回、参加者数：2,169人	継続	新型コロナウイルスの感染状況を踏まえつつ、実施の可否を判断していくが、実施する場合には、食と健康に関する内容を徹底して実施する。
9 ごみ出前講座	町内会等からの依頼によるごみの出前講座で、食品ロスの問題についての周知・啓発を行う。	環境業務課	開催数：9回、参加者数：187人	継続	新型コロナウイルスの感染状況を踏まえつつ、実施の可否を判断していくが、実施する場合には、食と健康に関する内容を徹底して実施する。
10 食品ロスをテーマとしたイベントの実施	食品ロスの問題についてのイベントを実施し、周知・啓発を行う。	新エネルギー・環境政策課	イオンモール高知でのSDGsイベントや、高知市教育委員会及び高知市学校給食会が主催する「食育実践発表会」にて、食品ロス問題に関するパネル展示等を実施し、周知・啓発を行った。 ・6/18 高知市環境啓発イベント（イオンモール高知） ・9/22・23 第7回市民が選ぶ鏡川学真コンテスト2022（イオンモール高知） ・10/15・16 食品ロス削減パネル展（イオンモール高知） ・11/3 高知市COOL CHOICE啓発イベント（イオンモール高知） ・2/23 令和4年度食育実践発表会（オーテピア）	継続	10月にイオンモール高知での食品ロス問題に関するパネル展示の開催を検討中である。

令和5年度 主要取組予定

＜今後の方向性＞
 ・関係者と連携し、高知の食（食材・食文化）を伝承・継承します。
 ・食事の作法や日本ならではの食文化などを次世代へ伝承・継承します。
 ・地元客の街路市への呼び戻しと盛り起しを行います。
 ・地産地消の推進のために直売所の活動を支援します。
 ・保育所や学校などでの地場産品の活用を推進します。
 ・給食に高知ならではの食材や郷土料理を取り入れ、子どもたちに高知の食のよさ、豊かさを伝えていきます。

2 高知の食（食材・食文化）を大切にするための取組

取組名		内容	所管課 関係団体	令和4年度の実績	方向性	令和5年度の実績状況 取組方法等
1	給食を媒体とした食育活動	行事食、高知ならではの料理や食材、地域食材を給食で提供する。	保育幼稚園課	日々の給食で実施	継続	
2	給食日より等での周知・啓発	保護者に行事食、高知ならではの料理や食材、地域食材やその調理方法等を紹介する。	保育幼稚園課	給食で取り入れながら食育メモにて周知（行事食）5・9・12・1・2・3月号 （旬食材・県産食材）5・6・7・9・10・1・2・3月号 給食室日より8・1月号（旬食材・県産食材）	継続	
3	給食での地場産品の活用推進	保育所給食での地場産品の活用を推進する。	保育幼稚園課	令和4年度実績>市立保育所：47.2%実施 ※令和4年度実績については現在集計中	継続 （条件付き）	引き続き保育所給食での地場産品の活用を推進していくが、従来の重量比率による調査は廃止する。
4	食育実践発表会【再】	全国学校給食週間にあわせ、高知市立学校における食育や、学校給食について紹介するイベントを開催し、市民・学校・家庭・地域への啓発を行う。	教育政策課	令和5年2月23日（水） オーテピアにて実施 入場者数：延べ1200人	継続	令和5年1月14日（日） オーテピアにて1日開催予定。
5	夏休み親子料理教室	小学5年生児童とその保護者を対象に、高知の食べ物で血縁料理を作る。	教育政策課	料理教室は中止 対象学年の5年生に血縁料理のレシピを配付したり、QRコードを活用した動画の配信を行った	継続	令和5年7月22日（土）・23日（日） かるぽーとにて開催予定。
6	小中学校食育・地場産品活用推進事業（体験学習）【再】	地域や関係団体等と連携し、食育体験学習を行い、食べ物や生産等にかかわる人々への感謝の心を育てることや、体験を通して地域の産物の特色や食文化について学ぶ。	教育政策課	25校、38件	継続	食育体験学習の実施：25校 38件 新規実施校：1校
7	小中学校食育・地場産品活用推進事業（血縁料理モデル校）	小学4年生を対象として、モデル校の指定を行い、血縁料理の授業と血縁給食を実施する。	教育政策課	新型コロナウイルス感染症拡大防止に配慮し、実施なし	検討中	
8	高知の食べものいっぱい入っちゅう日	毎月1回、地場産物活用割合50%以上（食材数ベース）を目指した献立を実施する。	教育政策課	62.6%（小中学校統一献立実施分）	継続	月1回、地場産物活用割合50%以上（食材数ベース）を目指した献立を実施。
9	自由献立の実施	学期に1回の自由献立の日を学校給食における「地産地消の日」として、収穫等の体験学習や教材のつながりをもった食材を取り入れることにより、学校の特色を活かした給食を実施する。	教育政策課	地産地消献立：食材数で48.8%	継続	学期に1回、地産地消の献立を実施。 献立作成者へ地場産物資料の提供。
10	高知家のカレー	毎年6月に地元産、県内産の食材を積極的に取り入れたカレーライスを献立を提供する。	教育政策課	全校で実施	継続	全高知市立学校で実施。
11	だして味わう和食の日【再】	11月に地元産、県内産の食材を積極的に取り入れ、だしを味わうことが出来るすまし汁等の献立を提供する。	教育政策課	全校で実施	継続	全高知市立学校で実施。
12	「あの魚屋さんがやってきた」料理体験教室	地域の鮮魚店等の従事者を講師に招き、県内の水産物に関する学習と水産物の調理実習を行う。	教育政策課	小学校2校で実施	継続	募集予定。
13	給食に活用した地場産物の紹介	給食に使用した地場産物に関する指導資料を作成し、給食放送等で児童生徒に啓発する。	教育政策課	給食に使用した地場産物に関する指導資料を作成し、給食放送等で児童生徒に啓発を行った	継続	給食に使用した地場産物に関する指導資料を作成し、給食放送等で児童生徒に啓発を行う。
14	農業体験学習推進事業	農業（酪農）体験学習を実施する。	農林水産課	酪農体験実施校：15校（児童679名） 農業体験実施校：3校	継続	市内の小学校を対象とし、農業（酪農）体験を実施する。
15	学校給食用食材生産支援事業	農業者が取り組む学校給食用食材の生産経費に対する助成を実施する。	農林水産課	補助実績：1件54千円	継続	農業者が取り組む学校給食用食材の生産経費に対し助成を行う。
16	有機市民農園管理運営事業	有機市民農園を通じて食の安全や環境保全への取組について関心をもちたいいただく。	農林水産課	有機市民農園利用区画数：48区画	継続	有機市民農園の管理運営を行う。
17	水産業技術改良普及事業	魚食普及推進事業等に取り組み高知地区漁業改良協議会に対して助成を実施する。	農林水産課		検討中	
18	食をテーマに含むイベント事業への補助	おきやくや血縁料理などをテーマとしたイベントへの開催補助を行い、イベントを通じて高知の食の豊かさをPRする。	観光魅力創造課	土佐の豊饗祭（高知市会場）・土佐の「おきやく」開催に対する補助支援	継続	土佐の豊饗祭（高知市会場）・土佐の「おきやく」開催に対する補助支援
19	観光客を対象としたまち歩きガイド事業	「龍馬の生まれたまち歩き～土佐っ歩～」における「豊の薫焼きたたきコース」で、参加者に豊の薫焼きたたきを体験していただく。	観光魅力創造課	たたき体験実施事業者のスタッフ不足等によるガイドコースの取り消し	中止	
20	街路市活性化推進事業	地元客向けリーフレット等を作成し、配布する。	商業振興・外商支援課	リーフレットを作成し公官庁施設に設置するとともに、日曜日やホテルなどに設置し啓発した。	継続	リーフレットを作成し公官庁施設に設置するとともに、日曜日やホテルなどで観光客の目にも留まるように設置し啓発する。
21	街路市活性化推進事業	食を通じた飲食店との連携事業を実施する。	商業振興・外商支援課	SUNAGUMUマーケットが2回イベントスペースで開催し飲食店が出店した。	継続	街路市の食材を利用している飲食店と連携し、効果的なPR方法を検討する。

22	街路市活性化推進事業	小学校の授業や教材を通じて、街路市文化を伝承する。	商業振興・外商支援課	出店者組合が主体となり保育園等74園にお買物券を配布。園児が街路市でお買い物体験をした。	継続	出前授業・出店体験や街路市の案内の提供、授業等で使える街路市の概要に関する教材の提供をする。
23	街路市活性化推進事業	高知商業高校や高知大学等の日曜日での活動への協力等を実施する。	商業振興・外商支援課	高知商業高校販売体験：19回 とさ自由学校販売体験（木曜市）：2回 田野中学校販売体験：1回 土佐女子高校販売：2回	継続	高知商業高校等の販売体験やイベント等への協力。 高知大学等の講義やゼミにおけるフィールドワークへの協力。
24	ヘルスマイトによる郷土料理講習会等への協力	学校における皿鉢給食や家庭科授業に協力し、郷土料理の作り方を伝える。	健康増進課 市食生活改善推進協議会	参加者数：203人	継続	地域での調理実習や講話による啓蒙を行う。

令和5年度 主要取組予定

＜今後の方向性＞

- ・農林漁業体験学習の取組を支援します。
- ・学童農園の取組を支援します。
- ・イベントや体験学習を通じて、生産者と消費者の交流を促す取組を支援します。
- ・栽培活動を通じ、農作物への興味や関心を育てます。

3 農林漁業への理解を深めるための取組

取組名	内容	所管課 関係団体	令和4年度の実績	令和5年度の取組状況	
				方向性	取組方法等
1 保育所における栽培活動	保育所での栽培活動を通じ、農作物への興味や関心を育てる。	保育幼稚園課	日々の保育で実施	継続	
2 クッキング保育	保育所で栽培したもの等を調理し、共食することで、食への興味や関心を育てる。	保育幼稚園課	市立保育所・幼稚園：17園、延べ33回	継続	
3 小中学校食育・地場産品活用推進事業（体験学習）【再】	地域や関係団体等と連携し、食育体験学習を行い、食べ物や生産等にかかわる人々への感謝の心を育てることや、体験を通して地域の産業の特色や食文化について学ぶ。	教育政策課	25校、38件	継続	食育体験学習の実施：25校 38件 新規実施校：1校
4 収穫体験事業	小学校対象。種まきから収穫までの農業体験等を通じ、生産者への理解と感謝の気持ちを育てる。	教育政策課 市学校給食会	小学校2校で実施	継続	2校で実施。
5 「あの魚屋さんがやってきた」料理体験教室【再】	地域の鮮魚店等の従事者を講師に招き、県内の水産物に関する学習と水産物の調理実習を行う。	教育政策課 県学校給食会	小学校2校で実施	継続	募集予定。
6 学校における食に関する指導の推進【再】	保健体育、家庭科、生活科、総合的な学習の時間、特別活動の時間等を活用し、食に関する指導を推進する。	教育政策課	給食実施率100% 給食時間における食に関する指導をはじめ、各教科と関連付けながらの指導を実施	継続	特別活動や教科等の時間に食育の視点を取り入れた食に関する指導の実施。 体育科、保健体育科、家庭科、生活科、総合的な学習の時間、特別活動の時間等を活用し、食に関する指導を推進。
7 農業体験学習推進事業【再】	農業（酪農）体験学習を実施する。	農林水産課	酪農体験実施数：15校（児童679名） 農業体験実施数：3校	継続	市内の小中学校を対象とし、農業（酪農）体験を実施する。
8 学校給食用食材生産支援事業【再】	農業者が取り組む学校給食用食材の生産経費に対する助成を実施する。	農林水産課	補助実績：1件54千円	継続	農業者が取り組む学校給食用食材の生産経費に対し助成を行う。
9 有機市民農園管理運営事業【再】	有機市民農園を通じて食の安全や環境保全への取組について関心をもっていただく。	農林水産課	有機市民農園利用区画数：48区画	継続	有機市民農園の管理運営を行う。
10 水産業技術改良普及事業【再】	魚食普及推進事業等に取り組む高知地区漁業改良協議会に対して助成を実施する。	農林水産課	中止	検討中	

令和5年度 主要取組予定



＜今後の方向性＞
 ・こうちし食育やそねつつによる連携・協働の活性化をすすめます。
 ・地域文化に触れる体験や学習などの事業を企画検討します。
 ・コミュニケーションや豊かな食体験にもつながる共食の機会の仕組みづくりをすすめます。

4人の輪をつなげるための取組

取組名		内容	所管課 関係団体	令和4年度の実績	方向性	令和5年度取組状況 取組方法等
1	こうちし食育やそねつつによるネットワークの構築	高知市食育推進計画に基づき、食育の推進に取り組み団体・個人が「こうちし食育やそねつつ」に登録し、それぞれの取組についての情報を発信することにより、関係者の連携・協働による食育の推進を図る。	食育推進委員会	登録団体数：14団体（2団体増） 情報交換会：令和4年6月27日開催 やそねつつと登録団体の連携による取組の実施	継続	登録団体の増加促進 情報交換会を7月開催予定
2	食育だより「わたしたちから始まる高知の食育」による情報発信	高知市食育推進委員会が毎月19日の食育の日に、食育だより「わたしたちから始まる高知の食育」を発行し、高知市ホームページで情報発信を行う。	食育推進委員会	Vol.121～Vol.132発行	継続	Vol.133～Vol.145発行予定
3	ふれあい給食事業	小学校・義務教育学校を対象に、生産者、給食物資納入業者、学校給食調理員等と給食を食べながら、食の大切さを学ぶ。	教育政策課 市学校給食課	新型コロナウイルス感染症拡大防止に配慮し、実施なし	検討中	高知市学校給食会の開発商品の使用日、高知市の生産者や納入業者等とのふれあい給食を検討。
4	食育推進支援事業 (食事提供活動支援事業)	小中学校において、朝食提供を行うボランティアに対し、食材等の支援を行う。	教育政策課 食育委員会	小学校1校で実施	継続	募集予定。
5	市民学校・成人講座・市民講座	公立公民館で開催される料理教室等を通じて、地域住民同士、学び合い、教え合いながら教養の向上を図るとともに、地域の仲間づくりにつなげる。	文化振興課	開催数：22回 中止：1回（新型コロナウイルス感染症拡大のため）	継続	
6	世代間交流ふれあい事業	公立公民館で開催される親子料理教室や餅つき体験を通じて、親子のふれあいや地域との交流を図り、相互の理解を深める。	文化振興課	開催数：3回	継続	
7	地域での食を通じたイベントの開催	市民と行政のパートナーシップにより本市が支援する地域内連携協議会等が、地域での食を通じたイベント（よこせと海辺のにぎわい市など）を開催する。	地域コミュニケーション推進課 地域内連携協議会等	地域が主体となって地域コミュニケーション推進等に取り組み活動のうち、食に関するもの。令和4年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止。	継続	市民と行政のパートナーシップにより本市が支援する地域内連携協議会等が、地域での食を通じたイベント（よこせと海辺のにぎわい市など）を開催するもの。
8	地域での食の集いの場における世代間交流の推進	市民と行政のパートナーシップにより本市が支援する地域内連携協議会等が、地域での食の集いの場（子ども食堂など）における世代間交流を推進する。	地域コミュニケーション推進課 地域内連携協議会等	地域が主体となって地域コミュニケーション推進等に取り組み活動のうち、食に関するもの。令和4年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、感染対策を徹底した上で実施している地域あり。	継続	市民と行政のパートナーシップにより本市が支援する地域内連携協議会等が、地域での食の集いの場（子ども食堂など）における世代間交流を推進するもの。
9	ヘルスマイト育成・養成事業	食を通じたボランティア活動に取り組み食生活改善推進員を育成・養成する。	健康増進課	ヘルスマイト会員数：112人（令和4年4月現在）	継続	活動に必要な知識が習得できるような講義、実習を含む育成・養成研修を行う。
10	口からはじめる食育推進事業	高知学園短大の学生実習と、市教育委員会、市保健所が連携して小中学校でのかむこことの啓発と歯肉炎予防のための歯科保健活動を行う。	健康増進課 学校教育課 高知学園短期大学	高知学園短大学生による歯科保健指導 小学校：22校、中学校：4校 *実習は行わず講話形式で実施	継続	令和4年度と同様に実施予定だが、コロナの状況を見ながら、実習等の実施を検討していく。
11	第3次高知市食育推進計画の周知・啓発	第3次高知市食育推進計画について周知し、計画に基づいて、連携・協働による食育推進を図る。	健康増進課 食育推進委員会	・市ホームページによる情報発信 ・高知市役所1階・2階食堂、オーテピアにおける啓発 ・食育実践発表会、防災講座等市内関係課との連携による啓発 ・学生の保健所実習の機会を捉え、若い世代を意識した啓発活動を実施。 ・関係企業との連携・協働により、第3次高知市食育推進計画に基づいた情報発信・啓発活動を実施。 (高知市役所食堂、イオンモール高知、ファミリアマー	継続	
12	関係企業との連携・協働による取組	高知市食育推進計画に基づき、協働で取り組んでいただける企業とともに、市民への啓発等の取組を行う。	健康増進課 市食育推進委員会	（高知市役所食堂、イオンモール高知、ファミリアマー	継続	高知市役所食堂での情報発信、啓発活動は継続。 イオンモール高知、ファミリアマー

第4次食育推進基本計画（令和3～7年度）の概要

基本的な方針(重点事項)

<重点事項>

生涯を通じた心身の健康を支える食育の推進

国民の健康の視点

<重点事項>

持続可能な食を支える食育の推進

社会・環境・文化の視点

<横断的な重点事項> 「新たな日常」やデジタル化に対応した食育の推進

横断的な視点

これらをSDGsの観点から相互に連携して総合的に推進

食育推進の目標

- ・栄養バランスに配慮した食生活の実践
- ・学校給食での地場産物を活用した取組等の増加
- ・産地や生産者への意識
- ・環境に配慮した農林水産物・食品の選択

推進する内容

1. 家庭における食育の推進：

- ・乳幼児期からの基本的な生活習慣の形成
- ・在宅時間を活用した食育の推進

2. 学校、保育所等における食育の推進：

- ・栄養教諭の一層の配置促進
- ・学校給食の地場産物利用促進へ連携・協働

3. 地域における食育の推進：

- ・健康寿命の延伸につながる食育の推進
- ・地域における共食の推進
- ・日本型食生活の実践の推進
- ・貧困等の状況にある子供に対する食育の推進

4. 食育推進運動の展開：食育活動表彰、全国食育推進ネットワークの活用、デジタル化への対応

- 7. 食品の安全性、栄養その他の食生活に関する調査、研究、情報の提供及び国際交流の推進：
- ・食品の安全性や栄養等に関する情報提供
- ・食品表示の理解促進

施策の推進に必要な事項

- ①多様な関係者の連携・協働の強化、②地方公共団体による推進計画の作成等とこれに基づく施策の促進 等

食育基本法

○食は命の源。食育は生きる上での基本であり、知育・徳育・体育の基礎となるべきものとの位置付け。

○「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践できる人間を育てる食育を推進。

○食育推進会議(会長:農林水産大臣)において食育推進基本計画を策定(平成18・23・28年)

○地方公共団体には、国の計画を基本として都道府県・市町村の食育推進計画を作成する努力義務

<食をめぐる現状・課題>

- ・生活習慣病の予防
- ・高齢化、健康寿命の延伸
- ・成人男性の肥満、若い女性のやせ、高齢者の低栄養
- ・世帯構造や暮らしの変化
- ・農林漁業者や農山漁村人口の高齢化、減少
- ・総合食料自給率(加卵・パスタ) 38%(令和2年度)
- ・地球規模の気候変動の影響の顕在化
- ・食品ロス(推計) 612万トン(平成29年度)
- ・地域の伝統的な食文化が失われていくことへの危機
- ・新型コロナウイルスによる「新たな日常」への対応
- ・社会のデジタル化
- ・持続可能な開発目標(SDGs)へのコミットメント

高知市食育推進計画の概要

～わたしから始まる高知の食育～



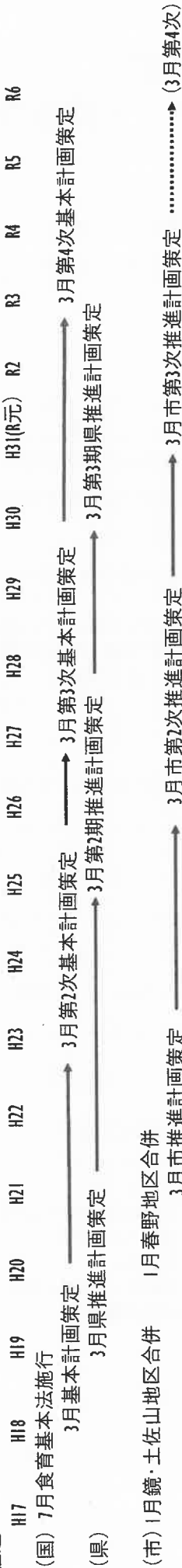
食育とは

生きる上での基本であって、知育・徳意及び体育の基礎となるべきもの。
様々な経験を通じて「食」に関する知識「食」を選択する力を習得し、健全な
食生活を実践することができる人間を育てること。（食育基本法 前文より）

法的根拠：食育基本法

第19条 市町村は、食育推進基本計画(都道府県食育推進計画が作成されているときは、食育推進基本計画及び都道府県食育推進計画)を基本として、当該市町村の区域内における食育の推進に関する施策についての計画(以下「市町村食育推進計画」という)を作成するよう努めなければならない。

経過



計画策定体制

- ・高知市食育推進会議 (高知市食育推進会議条例)
 - ・高知市食育推進委員会 (高知市食育推進委員会設置要綱)
- 策定及び改定年度には、食育推進会議及び食育推進委員会を開催し、パブリックコメントを経て策定(改定)



こちの食育8きょうだい

基本理念

食とひとがつながり輝く元気なまち

食育推進の3つの視点

「えらぶ」「はぐくむ」「つなぐ」

第4次に向けて(国 第4次食育基本計画より)
「食育ピクトグラム」令和3年2月 農林水産省作成
食育の取組を子どもから大人まで誰にでもわかりやすく発信するために作成されたもの

計画の特徴

第1次 市民への「食育の周知・啓発」

「豊かな食 おいしくいただき こじやんと元気！」をスローガンに、「朝ごはん しつかり食べて 健康づくり」
「体験活動を通じて 食と環境への理解を深める」の二つを取組の柱とした。市民への「食育」の周知を重視。

第2次 「周知」から「実践」へ

第1次のスローガンに「みんなあ」を追加し、「豊かな食 おいしくいただき みんなあ こじやんと元気！」とし、
共食の視点を土台として朝ごはんを食べることからはじまる「健康づくり」と、食に関する経験を重ねていく
「体験活動」を二つを取組の柱とし、市民、関係者、行政の協働により実践にむけて展開することとした。
災害時の食の備えを追加。

第3次 関係者の「連携」・「協働」

第1次・第2次を踏襲しつつ、「健康なところと身体のための食育」と「豊かな食を実現するための食育」の二つ
を取組の柱とし、10項目の取組について、課題と今後の方向性について具体的に示し、子どもから高齢者まで
生涯を通じた取組となるよう、関係者の連携・協働により取り組む。



農林水産体験

第4次食育推進計画 R5高知市食育に関するアンケート調査の概要

【目的】

高知市における食育に関する意識や取組についての現状を把握し、平成30年度に策定した「第3次高知市食育推進計画」（計画期間平成31年度～令和5年度）を評価し、次期計画を策定するための基礎資料とするため実施する。

【調査対象、方法及び実施期間】

		幼児	児童	生徒	成人
対象者		3歳児（保護者）	高知市立小学校5年生 高知市立義務教育学校前期課程5年生 特別支援学校小学部5年生	高知市立中学校2年生 高知市立義務教育学校後期課程8年生 特別支援学校中学部2年生	20～70歳代
調査方法		3歳児健診対象児（4～6月受診予定）の受診票に同封 3歳児健診会場にて回収	市立小学校，市立義務教育学校，特別支援学校に協力依頼 Google フォームを使用して実施	市立中学校，市立義務教育学校，特別支援学校に協力依頼 Google フォームを使用して実施	住民基本台帳より層化無作為抽出し郵送返信用封筒にて回収 またはウェブフォームから回答
調査時期		令和5年4月～6月	令和5年6月12日～23日	令和5年6月12日～23日	令和5年5月8日～31日
実施状況	対象者数	583人	2,522人	1,792人	2,500人
	回収数	352 (2023.06.28現在)	2301 (2023.06.29現在)	1498 (2023.06.29現在)	890 (郵送694+web196) (2023.06.28現在)
	回収率	60.4%	91.2%	83.6%	35.6%
調査内容		【幼児】 (1)食育への関心 (2)現在の食生活 (3)共食の状況 (4)生活習慣病の予防や改善に関する実践状況 (5)食文化 【保護者】 (1)食育への関心について (2)現在の食生活 (8)食の安全性 (9)その他	(1)食育への関心 (2)現在の食生活 (3)共食の状況 (4)生活習慣病の予防や改善に関する実践状況 (5)食文化 (7)環境への配慮や産地・生産者を意識すること	(1)食育への関心 (2)現在の食生活 (3)共食の状況 (4)生活習慣病の予防や改善に関する実践状況 (5)食文化 (7)環境への配慮や産地・生産者を意識すること	(1)食育への関心 (2)現在の食生活 (3)共食の状況 (4)生活習慣病の予防や改善に関する実践状況 (5)食文化 (6)農林漁業体験 (7)環境への配慮や産地・生産者を意識すること (8)食品の安全性 (9)その他

第3次高知市食育推進計画 食育推進に向けた目標値に対する現状（アンケート中間報告 R5. 6. 29 現在集計分）

視点	目標	指標	第3次計画作成時 (2018年度)	目標値 (2023年度)	現状値(参考値) (2023年度中間報告値)	確認方法
えらぶ	健康的な食を選ぶ	主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日に2回以上、ほぼ毎日食べている市民の割合	20~30歳代 29.9%	35%	30.8% (20~30歳代幼児保護者 43.9%) 47.1% (幼児保護者全体 45.6%)	R5 食育アンケート (中間報告)
	安全安心な食を選ぶ	食中毒予防のための正しい知識を持っている市民の割合	20~70歳代 14.1%	20%	17.0% (幼児保護者全体 24.1%)	R5 食育アンケート
	高知の食を選ぶ	保育所給食で使用する食材のうち、地場産品を活用する割合(重量ベース) 学校給食で使用する食材のうち、地場産品を活用する割合(食材数ベース)	保育所 45.3% 2017年度値 40.5% 2016年度値 学校 48.8% 2022年度値	55% 50%	調査中 48.8% 2022年度値	保育幼稚園課 教育政策課
はぐくむ	健康な心身をはぐくむ		幼児 95.5%	98%	97.9% (毎日 89.4%, ほとんど毎日 8.5%)	R5 食育アンケート
			小学生 89.1%	95%	92.5% (毎日 79.9%, ほとんど毎日 12.6%)	
			中学生 78.6%	90%	85.6% (毎日 70.6%, ほとんど毎日 15.0%)	
		朝食をほとんど毎日食べる市民の割合	20~30歳代 68.3%	75%	68.3% (毎日 49.2%, ほとんど毎日 19.2%) 20~30歳代幼児保護者 83.0% (毎日 64.9%, ほとんど毎日 18.1%)	
			20~70歳代 68.0%	74%	75.5%	
			20~70歳代 35.8%	45%	38.0%	
			小学生 74.8%	81%	77.6%	
			中学生 67.6%	74%	72.2%	
			保育所 93.1%	98%	2022年度値	
			幼稚園 100%	100%		
高知の食(食材・食文化)を大切にす		栽培活動を含む農林漁業体験活動に取り組む保育所・幼稚園・認定こども園・学校の割合	認定こども園 87.0%	92%	79.1% 2021年度値	個別アンケート 農林水産課
			小学校 82.9%	92%		
高知の自然環境を大切にす		高知の食を豊かだと思う市民の割合	20~70歳代 83.9%	93%	87.5%	R5 食育アンケート
		食品ロス削減のために何らかの行動をしている市民の割合	20~70歳代 98.0%	98%	99.0% (食品ロスを認識して行動 95.9%)	R5 食育アンケート

視点	目標	指標	第3次計画作成時 (2018年度)	目標値 (2023年度)	現状値(参考値) (2023年度中間報告値)	確認方法
つなぐ	一人ひとりが取り組む	「食育」の取組をしている市民の割合	20～70歳代	100%	96.8% (幼児 99.1%)	R5 食育アンケート
	ライフステージをつなぐ	食に関する指導計画を作成している保育所・幼稚園・認定こども園の割合	保育所 幼稚園 認定こども園	100% 55% 79%		個別アンケート
	命をつなぐ	災害時の食の備えを実践している市民の割合	20～70歳代	80%	72.9% (幼児保護者 78.8%)	R5 食育アンケート
	次世代へつなぐ	高知ならではの料理や食材を食べたことがある 小中学生の割合	小学生 中学生	95% 92%	(幼児 52.6%) 82.7% 85.4%	R5 食育アンケート
	社会をつなぐ	高知ならではの料理や食材、食べ方などを、次世代に伝えていくことを大切だと思ふ市民の割合	20～70歳代	90%	85.0%	R5 食育アンケート
		地域の人や家族と高知の食を楽しむ市民の割合	小学生 中学生	62% 60%	56.4% 54.6%	R5 食育アンケート
		一日一回は誰かと一緒に食事をする市民の割合	20～70歳代	60%	53.7%	R5 食育アンケート
		高知市食育推進計画に基づき、連携・協働して食育活動に取り組む団体等の数	「こうちし食育やるぞねっと」登録団体数	15 団体	14 団体 2022年度値	R5 食育アンケート 「こうちし食育やるぞねっと」登録団体数
			10 団体			

(1) 健康なところと身体のための食育

① 基本的な食習慣を身につけるための取組

取組の方向性	取組状況・実績	総括	課題
<ul style="list-style-type: none"> 朝食の大切さの啓発を行います。 栄養バランスの基本である「主食・主菜・副菜を組み合わせさせた食事」の啓発を行います。 共食の大切さの啓発を行うとともに、共食の機会をつくりめます。 ライフステージに応じた啓発を行います。 ライフスタイルに配慮した啓発を行います。 	<ul style="list-style-type: none"> 幼児健診で早期早起朝ごはんの大切さについて周知。 妊産婦子育て相談はぐみ（育児相談）での個別対応。 母子手帳交付面接時の相談に対応。 教育・保育施設等職員を対象とした「食育研修会」を開催。 食に関する指導計画に沿った食育活動の実施。 給食室により等を通じた、保護者への啓発。 イベントでの保育所給食の紹介。 学校給食を生きた教材として活用した食に関する指導を実施するたため、高知市学校給食年間指導計画に沿った献立作成。 小中学校食育・地場産品活用推進事業を活用した食育体験学習や食育講演会の実施。 小中学校9年間の食に関する指導の指導案及び指導資料作成。 体育科、保健体育科、家庭科、生活科、総合的な学習の時間、特別活動の時間等を活用し、食に関する指導を実施。 食育だより、給食だより、保健だより等を通じた、児童生徒・保護者及び地域への啓発。 食育実践発表会、親子料理教室の開催。 地域住民や企業などから申込みがあった健康講座（出前講座）では、参加者に対しバランスよい食事や共食について啓発。 市役所内や市の関連施設、ホームページでの啓発。 実習生による啓発活動。 ヘルスメイトの活動では、「朝食の大切さ」、「バランスのよい食事」をテーマに講習会を実施。20～39歳を対象とした女性健診では、当会場にて野菜の重量あてクイズやレシピの紹介、健康的な食生活の情報提供など啓発活動を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 母子保健事業ではコロナで集団指導の縮小や取組内容の変更が必要となったため、成果としては現れにくかった。 保育分野では教育・保育施設等職員を対象とした食育研修会で朝食の大切さ・栄養バランスについて啓発するとともに、保護者に対しては給食室だより、ほげんだより、食育メモ等を通じて、啓発ができた。 学童期においては高知市学校給食年間献立作成計画に沿った献立を作成し、学校給食を生きた教材として活用することができた。 食育体験活動、保護者対象の給食試食会、親子料理教室については、コロナの影響で一部実施を見送った。 食育実践発表会の発表を、動画上映に変更。保護者をはじめたくさんの方に食や学校給食、学校の取組について啓発することができた。 学校現場では体育科、保健体育科、家庭科、生活科、総合的な学習の時間、特別活動の時間等を活用し、食に関する指導ができた。 食育だよりや給食だより、保健だより等を通じ、児童生徒や保護者に対して啓発することができた。 成人保健分野では健康講座（出前講座）参加者の講座内容理解度は92%であり、参加者には、バランスのとれた食について周知されている。 新たな場所やホームページで朝食の大切さやバランスのとれた食事について啓発することで、いろいろなら世代に啓発することができた。 若い世代へのアプローチとして実習の場において学生による同世代への啓発の機会をつくった。 ヘルスメイトの活動では、コロナの影響もあり、講習会など対面できない代わりに訪問での啓発活動を行ったことで啓発する機会が増え、制限がある中で予想以上の活動を果たしてきた。女性健診の会場では、コロナの影響で内容変更し実施するなどはあったが、20～39歳までの参加者に対し、栄養バランスや朝食の大切さについて啓発することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 子育て世代となる乳幼児の保護者へ向けた朝食摂取の重要性の啓発。 子育て世代は毎年入れ替わっていくため、啓発継続が必要である。 小中学生の朝食喫食率が目標値に届いていない。 コロナの影響でここ数年啓発が難しかった「共食」についての啓発推進。 若い世代への朝食の大切さやバランスの良い食事についての啓発強化。

関連する目標（指標）	第3次計画開始時 (2018年度)		目標値 (2023年度)		現状値 (2023年度 アンケート中間報告値)	
	20～30歳代	20～70歳代	35%	60%	30.8%	47.1%
主食・主菜・副菜を組み合わせさせた食事を1日に2回以上、ほぼ毎日食べている市民の割合						
朝食をほとんど毎日食べる市民の割合	幼児		95.5%	98%	97.9%	
	小学生		89.1%	95%	92.5%	
	中学生		78.6%	90%	85.6%	
	20～30歳代		68.3%	75%	68.3%	

第3次高知市食育推進計画・総括表
 (1) 健康なこころと身体のための食育

取組の方向性	取組状況・実績	総括	課題
<p>②生活習慣病を予防するための取組</p> <ul style="list-style-type: none"> 健康づくりや生活習慣病の予防・疾病管理のために、減塩、適正飲酒について啓発を行います。 バランスよく食べるために、主食・主菜・副菜の組み合わせや、野菜の摂取について啓発を行います。 ゆっくりにくんで食べることの効果について啓発を行います。 関係機関との協働により、健康づくりや生活習慣の改善に取り組み環境づくりを行います。 	<p>取組状況・実績</p> <ul style="list-style-type: none"> パパママ教室での啓発。 学校給食をきた教材として活用した食に関する指導を推進するたため、高知市学校給食年間指導計画に沿った献立作成。 小中学校9年間の食に関する指導の指導案及び指導資料作成。 体育科、保健体育科、家庭科、生活科、総合的な学習の時間、特別活動の時間等を活用し、食に関する指導を実施。 食育だより、給食だより、保健だより等を通じた、児童生徒・保護者及び地域への啓発。 地域住民や企業などから申込みがあった健康講座（出前講座）では、生活習慣病を予防するための健康づくりや生活習慣について啓発。 20～39歳を対象とした女性健診では、健診当日と後日開催の結果説明会にて生活習慣病予防のための生活習慣改善について保健指導を実施。 来所や電話相談、量販店での健康相談の際に、生活習慣病予防のための取組について啓発を実施。 20歳以上の市民を対象に実施している「いざい健康チャレンジ」において、講座やイベントを通して、生活習慣病予防のための健康づくりや生活習慣についての啓発。 生活習慣病予防に関する協議会を開催し、生活習慣病の発症および重症化予防について、関係機関と現状・課題を共有し、協働の取組を実施。 ヘルスメイトによる活動では、「バランスのよい食事」、「野菜を食べよう」をテーマに講習会を実施、減塩に関する啓発も実施。 	<p>総括</p> <ul style="list-style-type: none"> パパママ教室では、SAT システムを利用し、妊婦自身の食事摂取量や栄養摂取量の気づきから、行動を改善してもらえようようにしていたが、令和元年中から新型コロナウイルス感染症流行のため中止し、講義のみに変更したため、成果としてはあらわれにくかった。 体育科、保健体育科、家庭科、生活科、総合的な学習の時間、特別活動の時間等を活用し、食に関する指導ができた。 食育だより、給食だより、保健だより等を配布し、児童生徒や保護者へ啓発することができた。 健康講座（出前講座）参加者の講座内容理解度は92%であり、参加者には減塩や適正飲酒、バランスのよい食事について周知できた。 女性健診を通して、健診を受ける機会の少ない育休中や主婦の方自身の健康を把握・振り返ることの必要性を周知することができた。 障害者就労支援事業所へ訪問し、健康づくりに関する情報提供やいざい健康チャレンジに参加してもらえようなどし、健康情報が届きにくい障害者への啓発も広がってきている。 いざい健康チャレンジの参加者のうち、92.4%が健康づくりに関心を持つきっかけになったと回答しており、参加することが関心を持つきっかけになっているほか、チャレンジの追加取組である「毎食野菜を食べる」「よく噛む」「減塩を心がける」についても、ノートに記載することで、意識する参加者を増やすことができた。 ヘルスメイトによる講習会などは、コロナの影響もあり、対面できない代わりに訪問での啓発活動を行ったことで、啓発する機会が増えるなど制限がある中で予想以上の活動を実施することができた。 	<p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 妊娠中にバランスのよい食事をとることができよう、行動改善につなげる指導内容の見直しが必要。 児童生徒は、ゆっくりにくんで食べることへの意識が低い。 無関心層や情報が届きにくい層への啓発強化。 若い世代や働き盛り世代への啓発強化。 健康づくりの輪を広げていく体制の強化。

関連する目標（指標）	第3次計画策定時 (2018年度)	目標値 (2023年度)	現状値 (2023年度 アンケート中間報告値)
主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日に2回以上、ほぼ毎日食べている市民の割合	29.9% 49.0%	36% 60%	30.8% 47.1%
減塩に気をつけた取組をしている市民の割合	68.0%	74%	75.5%
ゆっくりにくんで食べる市民の割合	35.8%	45%	38.0%

(1) 健康なこころと身体のための食育

③低栄養を予防するための取組

取組の方向性	取組状況・実績	総括	課題
<p>「低栄養」について、知識や理解の普及啓発を行います</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若い女性の栄養状態が、次世代への健康につながることを啓発を行います。 ・食の機会を通じた集いの場づくりを推進します。 	<p>取組状況・実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パパママ教室での啓発。 ・学校給食を生きた教材として活用した食に関する指導を推進するため、高知市学校給食年間指導計画に沿った献立作成。 ・小中学校9年間の食に関する指導の指導案並びに指導資料作成に関する指導の指導案並びに指導資料作成。 ・中学生に対する教員や総合的な学習の時間、特別活動等と関連した食に関する指導を実施。 ・家庭科、生活科、総合的な学習の時間、特別活動の時間等を活用し、食に関する指導を実施。 ・食育だより、給食だより、保健だより等を通じた、児童生徒・保護者及び地域への啓発。 ・地域住民から申込みがあった健康講座（出前講座）では、低栄養予防のための食生活などについて啓発。 ・20～39歳を対象とした女性健診では、参加者に対しヘルスマイトから健康的な食生活の情報提供やレシピの紹介を実施。結果説明会では、女性のやせについて触れ、バランスのよい食事について啓発。 ・ヘルスマイトによる「低栄養予防」をテーマに講習会を実施。 ・高齢期における低栄養予防の意識づくり等について、冊子やチラシを活用して啓発。 ・低栄養予防プログラムを体験会場で実施。 	<p>総括</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パパママ教室では、SAT システムを利用し、妊婦自身の食事摂取量や栄養摂取量の気づきから、行動を改善してもらえようという目的が、令和元年中から新型コロナウイルス感染流行のため中止し、講義のみに変更したため、成果としてはあらわれにくかった。 ・高知市学校給食年間指導計画に沿った献立作成を行うことができた。 ・家庭科、生活科、総合的な学習の時間、特別活動の時間等を活用し、食に関する指導ができた。 ・食育だより、給食だより、保健だより等を配付し、児童生徒や保護者へ啓発することができた。 ・成人保健分野では健康講座（出前講座）参加者の講座内容理解度は92%であり、参加者に、バランスのとれた食について周知することができた。 ・女性健診では、健診会場にてヘルスマイトによる栄養バランスや朝食の大切さについての啓発ができた。また、後日開催の結果説明会では、参加者に対し女性のやせについて触れ、バランスのよい食事について啓発を行うことができた。さらに、健診結果の見方の理解ができた者は96%、毎年継続して健診を受ける意向がある者が92%と参加者の自身の健康意識向上につながることができた。 ・低栄養予防の普及啓発のツールとしてパンフレットを製作し、啓発することができた。 	<p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・妊婦期にバランスのよい食事をとることができよう、行動改善につながる指導内容の見直しが必要。 ・小中学生の朝食欠食率が目標値に届いていない。 ・若い女性への栄養バランスの啓発強化。 ・コロナウイルス感染拡大の影響から、高齢者に計画通りに普及啓発を進めることができなかったため、啓発の機会づくりが必要。

関連する目標（指標）	第3次計画策定時 (2018年度)		現状値 (2023年度 アンケート中間報告値)	
	目標値 (2023年度)	実績値 (2023年度)	目標値 (2023年度)	実績値 (2023年度)
主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日に2回以上、ほぼ毎日食べている市民の割合	29.9%	35%	20～30歳代 20～70歳代	30.8% 47.1%
一日一回は誰かと一緒に食事をとする市民の割合	54.4%	60%	60～70歳代	51.8%

(1) 健康なこころと身体のための食育

④歯と口の健康のための取組

取組の方向性	取組状況・実績	総括	課題
<ul style="list-style-type: none"> 子どもの口の発達に合わせた食べ方の啓発を行います。 口の機能や口呼吸の改善のために口の体操を普及します。特に、幼児期・学童期を重点に取り組みます。 しっかりとよくかんで食べることが歯の健康や生活習慣病予防と関係することの啓発を行います。 「かかりつけ歯科医」をもち、口の健康管理をすることを継続して啓発します。 ライフステージに応じた啓発を行います。 	<ul style="list-style-type: none"> 離乳食教室やパパママ教室、育児講座等での普及啓発。 幼児健診での普及啓発。 給食室だよりやほげんだより等を通じた保護者への啓発。 給食を通してかむことの啓発、口の発達段階に応じたメニューや調理形態に配慮した給食の提供。 保育園職員対象の研修会等の実施（口腔機能育成）。 高知学園短期大学や歯科衛生士会による保育園などでの歯科健康教育の実施。 高知学園短期大学と連携した小中学校での歯科健康教育、「食と生活のアンケート」の実施。 口からはじめめる食育推進事業等をきっかけとした学校での歯科保健指導の実施。 養護教諭、学級担任、教科担当教諭による歯の健康に関する指導の実施。 食育だより、給食だより、保健だより等を通じた、児童生徒・保護者及び地域への啓発。 学校給食を生きた教材として活用するため、高知市学校給食年間献立作成計画に沿った献立の作成、カミカミ献立の実施。 健康講座（出前講座）や健康づくり事業中での普及啓発。 歯周病検診をきっかけとした普及啓発（歯科受診勧奨）。 総合保健協会の協力で働く世代への啓発。 市民主体の介護予防活動（かみかみ巨蔵体操など）への支援。 口腔ケアや「かかりつけ歯科医」を持つことについて啓発。 歯っぴいスマイルフェア、いきいき健康チャレンジスタートイベント等での啓発（歯科医師会、歯科衛生士会）。 	<ul style="list-style-type: none"> 母子保健事業では、指導の機会を捉えて、子どもの口の発達に合わせた食べ方について啓発できた。 新型コロナウイルス感染症の影響により、マスクをすることで口の動きが見えづらく、口の動きが悪くなり、丸飲みする園児が増えることが危惧される。 乳児保育研修、食育研修会で、子どもの口の発達に合わせた食べ方についての研修を実施し、職員に周知した。 給食室だより、ほげんだより、食育メモ等を通じて、保護者への啓発を行った。 よくかむことや口の体操については幼児期、学童期には周知できている。 歯肉炎になっていない小中学生の割合は、中学生は目標値に近づいてきている。 高知市立学校全校で、歯の健康に関する指導を実施することができた。 食育だより、給食だより、保健だより等を通じた、児童生徒・保護者及び地域への啓発ができた。 高知市学校給食年間献立作成計画に沿って、歯と口の健康週間やいい歯の日に合わせ、かみごたえのある食材を多く取り入れた献立を実施した。 成人期以降では、マスク生活と口の健康について、広く普及啓発を行ってきただめ、よくかむことや、口の体操についても周知できている。 成人歯周病検診から、歯科受診につながる方が多いため、かかりつけ歯科医を持つことにつながってきている。 	<ul style="list-style-type: none"> 母子保健事業の集団指導については、成果向上に向けて、講義内容の見直しが必要である。 妊娠、子育て世代は入れ替わっていくので、継続的な啓発が必要。 乳児期からの口腔機能の獲得、幼児期、学童期のかむこと、口呼吸等の悪習償改善のための取組の強化。 小中学校の歯肉炎予防、成人期からの重度化予防。 成人期以降も、何でもかんで食べられる歯・口腔を目指し、オーラルフレイル予防の取組強化。 マスク生活が長期化したことによる口腔機能の低下。

関連する目標（指標）	第3次計画策定時 (2018年度)	目標値 (2023年度)	現状値 (2023年度 アンケート中間報告値)
ゆっくりよくかんで食べる市民の割合	35.8%	45%	38.0%
歯肉炎になっていない小中学生の割合	小学生 74.8% 中学生 67.6%	81% 74%	77.6% 72.2%

(1) 健康なところと身体のための食育

⑤安全の食生活を送るための取組

取組の方向性	取組状況・実績	総括	課題
<ul style="list-style-type: none"> ・手洗いの大切さの啓発を行います。 ・食中毒予防の三原則の啓発を行います。 ・子どもの頃から生活における手洗いの衛生習慣を意識づけます。 ・鶏肉の生食の危険性の普及啓発を継続して行います。 ・焼肉の際のトングと箸の使い分けや加熱調理の徹底の普及啓発を継続して行います。 ・カキなどの二枚貝の生食の危険性の普及啓発を行います。 	<p>取組状況・実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園での食事前等の手洗いについて声かけの実施。 ・給食室だより等を通じた保護者への啓発。 ・園児を対象に手洗い指導の実施。 ・学校給食を生きた教材として活用した食に関する指導を推進するたため、食に関する指導の全体計画の活用。 ・食育だより、給食だより、保健だより等を通じた、児童生徒・保護者及び地域への啓発。 ・手洗いの大切さや食事前の手洗いの徹底について、声掛けや指導。 ・広報「あかるいまち」やホームページによる広報。 ・消費者を対象とした食品衛生講習会の開催・食の安全に関するリスクコミュニケーションの開催。 ・健康講座の啓発。 ・食品衛生月間行事の実施。 	<p>総括</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手洗い指導は、教育・保育施設等で基本的なこととして、長年日常的にも取り組んでいることであるので、今後引き続き啓発していく。 ・教育・保育施設等職員を対象に食育研修会を実施し、食品安全・衛生管理について周知することができた。 ・給食室だより、ほげんだより、食育メモ等を通じて、保護者への啓発を行うことができた。 ・手洗い指導を各学校で実施し、意識づけはできた。 ・コロナの影響もあり、各学校で手洗いの徹底・習慣化を図ることができた。 ・食育だより、給食だより、保健だより等を配布し、児童生徒や保護者へ啓発することができた。 ・食中毒予防について、鶏肉の生食の危険性等、具体的な知識が普及しつつある。 ・加熱不十分な鶏肉料理による食中毒事件、有症相談は続いており、啓発は十分とはいえない。 	<p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学校での手洗いの定着には継続的な指導が必要。 ・二次汚染対策についての啓発の機会が少なく、また、市民に分かりやすい手法に課題がある。 ・ノロウイルス対策について、カキなどの二枚貝の生食の危険性の他、食品を扱う人の健康状態や手洗いの重要性について普及啓発していく必要がある。

関連する目標（指標）	第3次計画策定時 （2018年度）	目標値 （2023年度）	現状値 （2023年度 アンケート中層抽出値）
食中毒予防のための正しい知識を持っている市民の割合	20～70歳代	14.1%	17.0%

(1) 健康なこころと身体のための食育

⑥災害に備えるための取組

取組の方向性	取組状況・実績	総括	課題
<ul style="list-style-type: none"> ・備蓄の必要性について、啓発を行います。 ・飲料だけでなく主食・副食など備えが充実するよう、備蓄食の内容について、啓発を行います。 ・子どもの頃から「災害に備える」知識や理解を深めるための啓発を行います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育・保育施設等における備蓄食の確保。 ・保育所給食で、備蓄食を提供。 ・給食室により等を通じた、保護者への啓発。 ・教育・保育施設等職員を対象とした「食育研修会」を開催。 ・教科や総合的な学習の時間、特別活動等と関連した食に関する指導を推進するため、小中学校9年間の食に関する指導の指導案並びに指導資料作成。 ・家庭科、生活科、総合的な学習の時間、特別活動の時間等を活用し、食に関する指導を推進。 ・学校給食を生きた教材として活用した食に関する指導を推進するため、高知市学校給食年間献立作成計画に沿った献立作成。 ・食育日より、給食日より等を通じた、児童生徒・保護者及び地域への啓発。 ・「災害時の備え」についてのリーフレットを活用した啓発。 ・家庭内備蓄等のチラシを活用した、地域の防災会や講習会、健康講座（出前講座）などでの啓発。 ・ヘルスマイトによる啓発。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公立保育所・幼稚園における備蓄食の確保できた。 ・備蓄食を給食として提供し、提供方法や味に慣れておく等、災害時に備えた取組を行うことができた。 ・教育・保育施設等職員を対象とした食育研修会で災害時の備えについて啓発できた。 ・園日より、給食室日より、ほげん日より、食育メモ等を通じて、保護者へ啓発することができた。 ・家庭科、生活科、総合的な学習の時間、特別活動の時間等を活用し、食に関する指導ができた。 ・高知市学校給食年間献立作成計画に沿って、防災の日に合わせて、災害時の食について考えることのできる防災給食を実施し、指導することができた。 ・食育日より、給食日よりを配付し、児童生徒や保護者へ啓発することができた。 ・地域での健康講座の際に、家庭内備蓄等についてのチラシを活用し啓発することができた。 ・ヘルスマイトの活動では、災害時の食に関する研修を追加取組として実施でき、災害時に対応できるスキルを身に着けることへつながった。 ・食と合わせて、口腔ケアの重要性と口腔ケア用品の備えについても啓発することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒に災害時の食に対する意識を高める必要がある。 ・災害時にも体調不良予防のための栄養管理ができるよう、市民に対し、備蓄の内容等や日頃からの健康管理について啓発強化。 ・家庭内備蓄割合の増加、備蓄量・内容の充実。 ・若い世代への備蓄啓発強化。 ・災害時を想定した実践での調理実習の強化。

関連する目標（指標）	第3次計画策定時 (2018年度)	現状値 (2023年度 アンケート中間報告値)
災害時の食の備えを実践している市民の割合	20～70歳代	66.5%
		80%
		72.9%

取組の方向性	取組状況・実績	総括	課題
<p>①環境を大切にするための取組</p> <ul style="list-style-type: none"> 食品ロスの軽減に関する啓発活動を継続して行います。 食品リサイクルを推進します。 	<ul style="list-style-type: none"> 給食室だより等を通じて食品ロス月間や食べ残しを出さない取組の啓発。 学校給食を生きた教材として活用した食に関する指導を推進するため、高知市学校給食年間献立作成計画に沿った献立作成。 教科や総合的な学習の時間、特別活動等と関連した食に関する指導を推進するため、発達段階に応じた、小中学校9年間の食に関する指導の指導案並びに指導資料作成。 家庭科、生活科、総合的な学習の時間、特別活動の時間等を活用し、食に関する指導を推進。 食育だより、給食だより等を通じた、児童生徒・保護者及び地域への啓発。 食べ盛り協力店登録制度。 忘年会・新年会はおいしく残さず食べさす食べさろう！全国共同キャンペーンの実施。 環境学習の実施。 ごみ出前講座の実施。 廃棄物パネル展、食品ロスをテーマとしたイベントの実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 給食室だより、食育メモ等を通じて、食品ロス月間や食べ残しを出さない取組に啓発することができた。 園児にも、日常的に給食を通して「残さず食べよう」・「好き嫌いをなく食べよう」と伝えることができた。 高知市学校給食年間献立作成計画に沿った献立を作成し、学校給食を生きた教材として活用することができた。 教科や総合的な学習の時間、特別活動等と関連した食に関する指導を推進するため、食品ロスや環境についての出前授業を導入することができた。 家庭科、生活科、総合的な学習の時間、特別活動の時間等を活用し、食に関する指導ができた。 食育だよりや給食だより等を配布し、児童生徒や保護者へ啓発することができた。 食品ロスに関する高い市民意識を維持できている。啓発活動についても、コロナ禍による事業中止等がありつつも一定の活動を行うことができた。 「第4次一般廃棄物処理基本計画」によると、平成25年度から令和3年度の1人1日当たりのごみの排出量は1,019gから1,006gとほぼ横ばいを維持できている。 	<ul style="list-style-type: none"> 給食の残食を減らすための指導を継続して行う必要がある。 「第4次一般廃棄物処理基本計画」の目標である令和14年度実績976gを目指すためには、「食品ロス」の削減についても、市民や事業者の更なる取組が必要。行政においても情報発信及び啓発・環境教育等の活動を引き続き行う必要がある。

関連する目標（指標）	第3次計画策定時 (2018年度)	目標値 (2023年度)	現状値 (2023年度 アンケート中間報告値)
食品ロス削減のために何らかの行動をしている市民の割合	98.0%	98%	99.0%

(2) 豊かな食を実現するための食育

②高知の食（食文化・食文化）を大切にするための取組

取組の方向性	取組状況・実績	総括	課題
<ul style="list-style-type: none"> 関係者と連携し、高知の食（食文化）を伝承・継承します。 食事の作法や日本ならではの食文化などを次世代へ伝承・継承します。 地元産の街路市への呼び戻しと掘り起こしを行います。 地産地消の推進のための直売所の活動を支援します。 保育所や学校などでの地場産品の活用を推進します。 給食に高知ならではの食材や郷土料理を取り入れ、子どもたちに高知の食のよさを、豊かさを伝えていきます。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域食材を取り入れた給食の提供。 給食を媒体とした食育活動。（行事食・高知ならではの料理や食材の伝承） 給食室により等での周知、啓発。 保護者への地域食材の紹介。 給食での地場産品の活用推進。 教育・保育施設等職員を対象とした「食育研修会」を開催。 学校給食を生きた教材として活用した食に関する指導を推進するた <p>め、高知市学校給食年間献立作成計画に沿った献立作成。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科や総合的な学習の時間、特別活動等と関連した食に関する指導を推進するため、発達段階に応じた、小中学校9年間の食に関する指導の指導演案及び指導演料作成。 指導演料の作成や給食放送等を活用した啓発。 食育実践発表会、夏の親子料理教室の開催。 ヘルスメイトによる郷土料理講習会等への協力。 農業体験学習推進事業の実施。 学校給食用食材生産支援事業の実施。 有機市民農園管理運営事業の実施。 水産業技術改良普及事業の実施。（魚食普及事業等） 学校給食畜産物提供推進事業の実施。（R4年度のみ） 街路市活性化推進事業の実施。 地元産向けリーフレットの配布。 飲食店との連携事業の実施。 小学校での街路市文化の伝承。 高校・大学等の市での活動協力を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 教育・保育施設等職員を対象とした食育研修会で食事マナー・行事食について啓発できた。 給食室により、食育メモ等を通じて、保護者への啓発することができた。 高知市学校給食年間献立作成計画に沿った献立を作成し、郷土食や高知ならではの食材を取り入れ学校給食を生きた教材として活用することができた。 学校給食を通して、行事食や高知ならではの食材について啓発することができた。 食育実践発表会を開催し、保護者をはじめたくさんの方に食や学校給食、学校の取組について啓発できた。 親子料理教室については、コロナの影響で一部実施を見送った。 小学校生が課外学習で街路市に来て出店者とふれあうことで、街路市を身近に感じてもらったことができた。 コロナ禍により飲食店との連携事業の実施ができなかった。 街路市組合主催で市内を中心とした保育園に買い物券を配布し、買い物を楽しんでもらったことができた。（引き続き実施予定。） リーフレットを作成したところ、ホテルや観光施設からの要望が多く、県外客の需要が多いと感じている。 新型コロナウイルス感染症の影響で実施できない時期もあったが、感染対策を行いながら実施できる範囲で実施するなどし、保育所・幼稚園・小中学校・高等学校・特別支援学校などへヘルスメイトが訪問することができた。 新型コロナウイルス感染症拡大の中、一部の事業については中止となったが、体験事業や食育授業について感染対策等を行いながら取り組みを実施することができた。 有機市民農園など、市民が農産物に触れる場を提供することができた。 農業体験学習推進事業や水産業技術改良普及事業では、関係機関等との連携により体験学習を実施しており、子どもたちに高知の食材（農畜水産物）を伝えるとともに、農業や漁業への関心を深めてもらうことができた。 	

関連する目標（指標）	第3次計画実施時 (2018年度)		現状値 (2023年度 アンケート中間報告値)	
	目標値 (2023年度)	実績値 (2023年度)	目標値 (2018年度)	実績値 (2018年度)
高知の食を豊かたたく思ふ市民の割合	93%	83.9%	20~70歳代	87.5%
高知ならではの料理や食材を食へたことがある小中学生の割合	95%	88.7%	小学生	82.7%
	92%	83.5%	中学生	85.4%
高知ならではの料理や食材、食べ方などを、次世代に伝えていくことを大切に思ふ市民の割合	90%	84.1%	20~70歳代	85.0%
地域の人や家族と高知の食を楽しむ市民の割合	62%	52.2%	小学生	56.4%
	60%	49.2%	中学生	54.6%
	60%	50.1%	20~70歳代	53.7%
保育所給食で使用する食材のうち、地場産品を活用する割合（重量ベース）	55%	45.3%	保育所	
	50%	40.5%	学 校	
学校給食で使用する食材のうち、地場産品を活用する割合（食材数ベース）	48.8%			

(2) 豊かな食を実現するための食育

③ 農林漁業への理解を深めるための取組

取組の方向性	取組状況・実績	総括	課題
<p>農林漁業体験学習の取組を支援します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童園の取組を支援します。 イベントや体験学習を通じて、生産者と消費者の交流を促す取組を支援します。 栽培学習を通じ、農作物への興味や関心を育てます。 	<p>取組状況・実績</p> <ul style="list-style-type: none"> 教育・保育施設等における栽培活動。 <ul style="list-style-type: none"> クッキング保育。 給食室だより等を通じて、保護者への啓発を行った。 家庭科、生活科、総合的な学習の時間、特別活動の時間等を活用し、食に関する指導を推進。 <ul style="list-style-type: none"> 生活科や総合的な学習の時間等における栽培体験学習の実施。 小中学校食育・農場産品活用推進事業を活用した食育、体験学習や食育講演会の実施。 農業体験学習推進事業の実施。 学校給食用食料生産支援事業の実施。 有機市民農園管理運営事業の実施。 水産業技術改良普及事業の実施。(魚食普及事業等) 学校給食畜産物提供推進事業の実施。(F4年度のみ) 高知の食育8きょうだいを活用した啓発。 	<p>総括</p> <ul style="list-style-type: none"> 教育・保育施設等では、身近な野菜等の栽培活動を行い、栽培活動を行う前や、野菜等の世話をしている期間に絵本や図鑑等を見ながら栽培しているものに対して興味を深めることができた。 コロナ禍では、クッキング保育の取組に制限がかかり、取組数は減少したこともあったが、各園で感染症対策を実施しながらクッキング保育を行うことができた。 園により、給食室だより、食育メモ等を通じて、保護者への啓発を行うことができた。 家庭科、生活科、総合的な学習の時間、特別活動の時間等を活用し、食に関する指導ができた。 小中学校食育・農場産品活用推進事業を活用した食育体験学習の実施が、新規も含め増加することができた。 各校で生活科や総合的な学習の時間等に地域と連携した栽培体験学習の実施ができた。 食育体験活動については、コロナの影響で実施を見送った。 新型コロナウイルス感染症拡大の中、一部の事業については中止となったが、体験事業や食育授業について感染対策等を行いながら取り組みを続けることができた。 有機市民農園など、市民が農産物に触れる場を提供することができた。 農業体験学習推進事業や水産業技術改良普及事業では、関係機関等との連携により体験学習を実施しており、子どもたちに高知の食料(農畜水産物)を伝えるとともに、農業や漁業への関心を深めてもらうことができた。 コロナの影響をうけた事業者支援、児童生徒に対し県産食材への理解を深めるための活動を実施することができた。 	<p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の栽培活動を含む農林漁業への興味関心を高めていく。 農地や農業者が少ない地域の小学校では、農業体験を行う場所や協力していただけの指導者や農業者の確保が難しいとの声がある。

関連する目標(指標)	第3次計画決定時 (2018年度)		現状値 (2023年度 アンケート中間報告値)	
	実績値	目標値	実績値	目標値
栽培活動を含む農林漁業体験活動に取り組み保育所・幼稚園・認定こども園・小学校	93.1%	98%	100%	100%
保育所・幼稚園・認定こども園・小学校	87.0%	92%	82.9%	92%
高知の食を豊かだと思ふ市民の割合	20~70歳代	83.9%	93%	87.5%

(2) 豊かな食を実現するための食育

④人の環をつなげるための取組

取組の方向性	取組状況・実績	総括	課題
<ul style="list-style-type: none"> ・こうちし食育やるぞねっとによる連携・協働の活性化をすすめます。 ・地域の伝統行事など、地域文化に触れる体験や学習などの事業を企画検討します。 ・コミュニケーションや豊かな食体験にむつまがる共食の機会の仕組みづくりをすすめます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・給食室だよりを通じた保護者への啓発。 ・高知学園短大の学生実習と、市教育委員会、市保健所が連携して小中学校での噛むことの啓発と歯肉炎予防のための歯科保健活動。 ・口からはじめめる食育推進事業の実施。 ・学校給食を通じた共食の機会。 ・ふれあい給食の実施。 ・地域の人材と協働した食育体験学習の実施。 ・地域の食材や旬の食材を使った料理教室の開催。 ・世界各国の料理を学べる教室の開催。 ・世代間交流では、餅つきやイタドリ収穫体験等の伝統行事や地域の食文化に触れる体験を実施。 ・食生活改善推進員（ヘルスマイト）育成、養成事業の実施。 ・いきいき百歳体操会場での茶話会や食事会の開催。 ・通所型サービスB事業では、食事提供などのサービスもあり、地域の多世代が集う通いの場として発展。 ・地域での食を通じたイベント（よこせと海辺のにぎわい市など）の開催。 ・地域での食の集いの場（子ども食堂など）における世代間交流の推進。 ・食育推進委員会関係課による情報発信。 ・こうちし食育やるぞねっと登録団体による食育活動。 ・庁内関係課や関係企業との連携・協働による、情報発信・啓発活動。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で、圏と地域の人との交流を伴う食育の取組に制限がかかり実施できなかった。 ・給食室だよりの食育メモ等を通じて、保護者への啓発を行うことができた。 ・日常的に、「みんなで楽しく食べる」ことを通じて、共食の大切さを圏別に伝えることができた。 ・高知学園短期大学、市教育委員会、市保健所と連携することで、効果的な歯科保健指導を実施することができた。 ・食育体験学習の実施により、地域の人材とのつながりを持つことができた。 ・ふれあい給食について、コロナの影響で実施を見送った。 ・コロナ対応により、給食時間の共有ができなかった。 ・食を通じての地域コミュニティの推進や世代間交流の推進などにアプローチできていない。 ・新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、長期間活動を休止したことで以前のようないきいき百歳体操会場の活動が難しくなっている。 ・デジタル化が進み、料理教室に行かなくても簡単にレシピが手に入る時代となった今、地域の公民館で実施する料理教室では、家庭では挑戦しづらいものを積極的に取り入れ、実施することができた。 ・コロナウイルス感染拡大の影響から、既存のいきいき百歳体操会場での茶話会や食事会なども自粛が続き、食の集いの場を進めていくことが難しくなった。 ・ヘルスマイトが行う地域での講習会などは、対面のできない代わりに訪問での啓発活動を行ったことで、啓発する機会が増えるなど効果も見られた。 ・食育推進委員会関係課が持ち回りで担当することで、多様な情報発信ができた。 ・こうちし食育やるぞネットの登録団体が連携し、新しい啓発活動を実施することができた。 ・関係企業との連携・協働による啓発活動を行うことで、今まで接点の少なかった対象者に啓発することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、長期間活動を休止したことにより、以前のようないきいき百歳体操会場の活動が難しくなっている。 ・食文化の継承も重要ではあるが、今後参加者を増やしていくためには市民の多様化するライフスタイルにあわせて対応を工夫が必要。 ・この数年は、地域住民の交流できる場が減少し、地域のつながりの希薄化が加速し、世代間交流事業と謳っている料理教室についても、感染対策を講じる観点からは難しく、課題は残ったままである。 ・健康づくりの輪を広げていく体制の強化。 ・地域住民に対して共食の啓発。 ・高齢期だけでなく、幅広い世代での食は地域課題であり、住民主体の食の集いの場として、子ども食堂や通所型サービスB事業などで多世代の食の集いの場づくりを進めていく必要がある。 ・いきいき百歳体操会場での茶話会や食事会などについても感染対策しながら再開できるように支援していく。 ・こうちし食育やるぞねっと登録団体数の増加。 ・登録団体同士、登録団体と行政の連携・協働による活動や情報発信の強化。

関連する目標（指標）	第3次計画実施時 (2018年度)		目標値 (2023年度)		現状値 (2023年度 アンケート中間報告値)	
	達成率	回数	達成率	回数	達成率	回数
「食育」の取組をしている市民の割合	98.1%	100%	100%	100%	96.8%	96.8%
高知ならではの料理や食材、食べ方などを、次世代に伝えていくことを大切だと認める市民の割合	84.1%	90%	90%	90%	85.0%	85.0%
地域の人や家族と高知の食を楽しみ市民の割合	52.2%	62%	60%	60%	56.4%	56.4%
	49.2%	60%	60%	60%	54.6%	54.6%
	50.1%	60%	60%	60%	53.7%	53.7%
高知市食育推進計画に基づき連携・協働して食育活動に取り組む団体等の数	10団体	15団体	15団体	15団体	14団体	14団体

【参考：第3次高知市食育推進計画より】

基本理念

食とひとがつながり輝く元気なまち

スローガン

豊かな食 おいしくいただき みんなあ こじゃんと* 元気！

※「こじゃんと」とは、土佐弁で「とても」「とことん」などの意味を表します。
ここでは、食材と、それを育てる環境、またその恩恵を受ける人々、その全てが
とても元気というイメージで使っています。

2 食育推進の視点

基本理念に向かって食育を進めていくために、第1次計画及び第2次計画の基本的な考え方を引き継ぎ、3つの視点で取り組んでいきます。

(1) 「えらぶ」：食をえらぶ力を高める

健康の保持増進や食の安全安心確保のために、市民一人ひとりが食に関する知識を習得し、食を選ぶ力を高めることが重要です。また、豊かで多種多様な高知の食を、もっと地元で味わう視点が必要です。

(2) 「はぐくむ」：高知の食をとりまく環境を大切に、健康な心身をはぐくむ

高知の食には恵まれた環境・特色ある文化・歴史があります。このすばらしい高知の食を大切に、さらに発展させることをめざします。また、自分自身や家族の健康を育てていく視点も重要です。

(3) 「つなぐ」：みんなで食育の輪をつなぐ 人の輪をつなぐ

食育の主役は市民一人ひとりです。家庭をはじめ、保育所・幼稚園・学校などでの取組を核として、地域や企業（食品関連を含む全ての企業）等の関係者が連携・協力しながら、ライフステージに応じた食育に取り組めるしくみを充実させ、食育の輪を広げつなげていく視点が必要です。

また、一緒に食を楽しむ、経験するといった人の輪をつなげていくこと、命をつないでいくために災害時の食の備えも大切です。

第4次高知市食育推進計画策定 スケジュール（令和5年度）

年度	月	高知市食育推進委員会	高知市食育推進会議	その他
5	4月			
				3歳児 アンケート・集計
	5月			成人 アンケート・集計
				小中学生 アンケート・集計
	6月	第1回高知市食育推進委員会 ・ R4 取組報告, R5 取組予定 ・ 第3次計画総括準備 ・ 第4次計画骨子・方向性（案）の検討		教育・保育施設等 アンケート・集計
	7月		第1回高知市食育推進会議 ・ アンケート中間報告 ・ 第3次計画総括 ・ 第4次計画骨子・方向性の確認	
	8月			
	9月	第2回高知市食育推進委員会 ・ アンケート結果報告 ・ 第4次計画素案作成		
	10月		第2回高知市食育推進会議 ・ アンケート結果報告 ・ 第4次計画素案検討	
	11月	第3回高知市食育推進委員会 ・ 第4次計画最終案作成		
	12月	(高知市食育推進委員会) ・ 第4次計画最終案修正	第3回高知市食育推進会議 ・ 第4次計画最終案確認	
	1月			パブリックコメント実施
	2月	第4回高知市食育推進委員会 ・ パブリックコメントの報告 ・ 第4次計画（案）作成	【郵送】・パブリックコメントの報告 ・ 第4次計画確認, 最終調整	
3月		市長へ報告, 第4次食育推進計画策定		